

② 2013年度 基調編

1	2013年度	公益社団法人日本青年会議所	会頭所信及び基本資料	39
2	2013年度	公益社団法人日本青年会議所	近畿地区協議会 会長所信及び基本方針	55
3	2013年度	公益社団法人日本青年会議所	近畿地区 京都ブロック協議会 会長所信及び基本方針	57
4	2013年度	公益社団法人乙訓青年会議所	理事長所信及びスローガン・テーマ	59
5	2013年度	公益社団法人乙訓青年会議所	基本計画、委員会・会議体活動計画	64
6	2013年度	公益社団法人乙訓青年会議所	第2次収支予算書	68
7	2013年度	公益社団法人乙訓青年会議所	会議構成員	70
8	2013年度	公益社団法人乙訓青年会議所	組織図	71
9	2013年度	公益社団法人乙訓青年会議所	委員長方針	72
10	2013年度	公益社団法人乙訓青年会議所	委員会配属	80
11	2013年度	公益社団法人乙訓青年会議所	出向者一覧	81
12	2013年度	公益社団法人乙訓青年会議所	年間公式スケジュール	82

小畑 宏介

試練を与え続ける天。震災のあの日から、わが国は再び希望を取り戻せたのだろうか。今、再び勇壮なる日本へ。新しい時代への胎動が始まった。私は覚悟をもってこの国の燈火となる。

【はじめに】

私の祖父が生涯愛していた言葉がある。それは「享けし命をうべないて」である。「享けし命」は、天から授かった生命。「うべないて」は、ありがたく受けて。二度とない生命をこの世に受けた。快くこれを受け入れ、精一杯、完全燃焼して、生きた甲斐があるよう、充実した人生を送ろうという意味である。授かった命の一日、一瞬を誠実に生きることにより、はじめてその生きる喜びを味わえるのではないだろうか。この祖父の言葉は、私の心に強く刻み込まれている。

1999年、私は青年会議所の一員となった。表裏のない真っ直ぐな気持ちで、常に青年の気概をもって行動する多くの先輩に出会った。憧れる先輩の背中を追いながら、誰かのために我が身も振り返らず行動し、ともに泣き笑いながら過ごしたこれまでの日々は、私に多くのことを教えてくれた。青年会議所は、40歳までという限られた時間の中で毎年、新しい英知を導入し、創始の志を継承しながら創造の精神を掲げ、常に時代の先端で可能性を切り拓いてきた。明日への黎明に向け今日の犠牲を惜しまない、どこかで誰かのために役立っていることをひたすらに信じて走り続ける。それが我々JAYCEEである。

今、我々がそのバトンを受け継いだ。単年度制の文化ゆえ、積み重ねる一年は挑戦のために与えられた一年であり、時には自分の苦手なことを克服しながら、向き合っていくべきものなのである。今日まで、私の中で、そのことは何も変わってはいない。私は、全てのことに真摯に向き合ってきた。青年会議所という舞台上、永遠を駆け抜ける一瞬の我々であることを再確認し、検証を重ねながら次世代にバトンをつなげなくてはならない。歴史と人と出来事。そして未来。全てはつながっている。青年会議所運動は全てにつながっているのである。

震災後、日本人は多くの犠牲と引き換えに絆の大切さに気づいた。

「私はいったい何者で、今どこに立っているのか。」

今まで私たちは何によって生かされていたのか、たくさんの「つながり」の中に身を置いていることを実は忘れてしまっていたのかもしれない。私たちは一人ではない。

守るべき家族、かけがえのない友人としっかりとつながっている。そして、世界の一人として、国のことを思い、地域を大切に「つながり」に真剣に向き合った時、何をもって生きていくのかを教えてくれるのではないだろうか。未来への希望を胸に新たな日本を創っていくため、覚悟をもってこの時代を生き抜くため、無限なる結びつきの中に自分が形成されていることを知り、そのつながる先、地域や国家、世界に、最良の変化を起こすことを目的に、「つながり」と私は真摯に向き合っていきたい。

それこそが全てに、そして未来につながるのだ。

【日本を輝かせるのは誰なのか】

東日本大震災は単なる災害ではなく、近年迷走を続け、あらゆる意味で存立基盤が脆弱に成り果てていた日本に追い打ちをかけ、わが国の衰亡の危機、国難ともいえる状況に追い込んだ。東日本大震災と原子力発電所事故によって突きつけられた東北と日本の復興、国難の時代にあっても政局に明け暮れ決断できない政治への不信、バブル経済崩壊後から「失われた30年」になる可能性すら感じる経済不安、さらには領土・領海が脅威にさらされる安全保障問題など確かな道筋が見えず、わが国は決して先送りをするのでできない多くの問題を抱えている。そして、国家観をもつことを拒絶し、当事者意識の不全に陥った国民は一人ひとりの心のあり方にまで浸透した「戦後」という時代から抜け出せずにいた。日本は今、閉塞感の中でもがき、漂流している。日本で最後のベビーブーム世代である私たち青年の果たすべき責任は重く、先送りすることができない問題を抱え転機を迎えた今、新しい「震災後」時代が必要なのだ。

日本が近代的な国家と変化した維新の時、はじめて国民となった明治の日本人は今私たちの同じように転機に直面した。国民となった全ての人は、国と自分を重ね合わせ、日本と運命をともにする危機感にも似た気持ちからか、その雰囲気から滲み出てくる気概、気迫をもっていた。国民国家が成立し、はじめて国家に参加した明治の人々の間には、自分が国家を代表しているのだという高揚感があつたのである。若者たちは、自分の努力が日本の進歩を生むと固く信じ「自分が一日休めば、日本が一日遅れる」という気概をもって日々、励んだのである。

今日、国家の存在に気づいていない人々があまりにも多い。この国は、国民のものである。この国を築いてきた先人たちから引き継いだ私たちと未来の世代のものである。日本は今、混乱を極め、時代の転機にある。変わらねばならないのに変えられない日本。未だ希望を見出せないわが国、日本。これまで私たちは数々の困難を乗り越えてきた先人たちの努力の上にあぐらをかき、手遅れという感覚を忘れてしまったのではないだろうか。あるいは、どこか他人事で、誰かがやってくれるのを待ち望んでいたのかもしれない。戦後、再び訪れた日本の転機に、新しい時代を創造し光を与え

られるのは誰なのであろうか。

それは J A Y C E E しかない。

戦後の焼け野原から、日本を再建するという志をもって青年が立ち上がった。それが青年会議所の誕生であり出発であった。戦後の混乱期、先行きの見えない時代に、わが国の未来を強く信じることで、自らが暗闇を照らす光となったのである。そして、青年会議所は、その運動の灯をともした時から、「明るい豊かな社会」の実現に向けて、時代がもたらす困難に創始の志をもって挑んできたのである。我々は、次の世代のためにも覚悟をもって日本の新しい希望となり、わが国に新しい時代を創造する責任がある。

私は今、我々が描く未来こそが、日本を輝かせると確信している。

【この国は誰のものであるのか】

わが国には、国家の針路を決断し超えていかなくてはならない問題がいくつもある。しかしながら、総論賛成各論反対とよくいわれるように、各論で反対している限り総論はいつまでたっても実現することはない。誰しもが問題を解決する趣旨（総論）には同意しているものの、個別具体的な方策（各論）になると反対したり、批判したりする側に立つ人々が大勢を占める。これは国民の当事者意識の欠如に起因するものである。

この国はいったい誰のものであるのか。

それは紛れもなく、国民のものである。

私たちは「震災後」という新しい時代を創り上げるために、停滞することが許されない今、あらためて国家のあるべき姿をしっかりと描き、日本を前進させなくてはならない。国の主人公が私たちだとするならば、国の主人公にふさわしく心から、国を愛し、国家の平和と繁栄の中にこそ自分たちの幸せがあるのだと考え、主人公にふさわしい義務を果たしていくべきなのだ。誰の国でもない、私たちの国なのである。

我々の弛むことなく生む斬新な運動により、国家に未来への希望をもって真摯に向き合う堅牢な国民性を促し、自覚と気概をもつ国民が創る新しい日本を目指そうではないか。

【日本の未来を切り拓く】

2009年秋の歴史的な政権交代は戦後民主主義の熟成であっても国家の枠組みを変える出来事ではなかった。いつから日本は決められない国になったのか。今、わが国は国家の根幹に関わる重要な問題について、解決への道筋となる明確な国家の意志を示すことができずにいる。この国難ともいえる状況にあっても、決められない政

治、政局に明け暮れる政治への不信が続いているのである。

民主主義は国民の努力によって守られる。わが国には、憲法があり、法律があり、そして選挙がある。しかし、それだけでいいのだろうか。それは国民が強い意志をもって積極的に関わってはじめて機能するものなのである。日本国憲法は国民主権を謳い、選挙は民主主義の土台であるというように国会議員は私たちが選択をしている。政治のレベルは国民のレベルである。これまでの私たちは政治に対し傍観者となり、批判だけを繰り返し、自分が国のために何ができるかを問わずにきた。忘れてはならない。国の選択は私たちにしかできないはずだ。社会を変えることは、政治を変えることであり、政治を変えることは、私たちの意識を変えることである。つまり国の転機に直面している今の日本においては、日本国民自身が民主主義の担い手、主権者としての正に適格性が問われているのだ。新しい時代の民主主義を実現するために、その責任を果たさなくてはならないのである。日本 J C は、これまで、国民主権の確立を図るために、国政選挙、首長選挙などにおいて、マニフェスト型公開討論会を全国各地で実施するとともに、e-みらせんの運用を推進してきた。引き続き、政策本位の政治選択が国民に浸透する取り組みを進め、政策を国民に理解しやすいかたちで届けるとともに、未来の有権者への選挙教育にも取り組み、国民が選択の責任を果たす意識を高める行動につなげたい。

私たちがこの国の運命は自分にかかっていると意識した時から、気概や信念が生まれる。国民が日本の未来を選択することが国家の意志となるのである。私たちの選択が日本の未来を創るのである。

【国家のあるべき姿を描く】

日本国憲法が大きな転機を迎えていることは疑う余地がない。そこには制定から一度も改正されることなく60余年の年月を経た憲法が、時代の急激な変化に対応できなくなってきたという事実があるからだ。また、世界を俯瞰するに、現行憲法に定められた範囲内では世界各国への義務と責任を十分に果たせなくなってきたのはいまでもない。

憲法は国の最高法規であり、その内容によっては国の運命を大きく変えることにつながるものである。しかしながら、大多数の国民は憲法に対して意識が低い。戦後レジームにおいては現行憲法が世界に誇れる平和憲法として神格化され、憲法論議そのものがはばかれてきたのは事実であるが、時代の変化に応じ、自らの憲法について議論することは、主権者たる国民の権利であり、義務なのである。

これまで、日本 J C は憲法問題に対し、様々な切り口で継続的に取り組んできた。今一度、日本国憲法と国民の関わりはこのままでいいのか、これまでの憲法論議の当事者は本当に私たち国民だったのかを問いながら、国民への憲法論議への意識喚起を

推し進めていきたい。また、2010年5月18日に施行され、2年が経過した今日、国民投票法について注視することが必要であり、国民投票法の置かれている状況と真摯に向き合い施行状況を検証することで、これからの憲法論議を前進させたい。

主権者である私たちが、この国について主体的に考え、立憲主義を発展させる役割を担っていることを自覚しなくてはならない。そして、この大きな転機だからこそ、この国の姿とあり方を決める根幹である憲法に日本と日本人が大切にしている価値観を明確に示すべき時であると考え、これからの新しい未来に向けた国民のための憲法について真剣に議論を展開し、自主憲法制定に向けての具体的な行動につなげていきたい。

【主張できる国民意識の醸成】

6, 852の島で構成される日本は陸地の面積（約38万平方キロメートル）で世界第61位であるが、領海と排他的経済水域（EEZ）を合わせた面積（約447万平方キロメートル）では世界第6位の海洋大国である。また、その海域には膨大な資源が存在しており、メタンハイドレートやレアメタルなどの海底資源のほか、豊富な漁業資源は日本の食糧自給率にも大きく影響している。わが国がこの広大で豊かな海を有しているのは北方四島、竹島、沖ノ鳥島、尖閣諸島などの離島が、日本固有の領土として存在するからなのである。しかし、わが国では大切な領土での不当な実効支配の状態が続いており、昨今の近隣諸国のその強硬な姿勢は国家として看過することができない状況にある。また、領海侵犯問題についても予断を許さない深刻な状況にあり、他国の反日民間団体の抗議船が日本の領海内に侵入し、尖閣諸島・魚釣島に主権侵害を目的として不法入国した事件も記憶に新しい。

領土・領海については、隣接地域だけの問題ではなく国家的な問題であり、また、国民の多くが解決の必要性を感じているものの、まだまだ意識は希薄である。日本の主権が脅かされている今、守るべき国益を侵害されないよう、国家の主権者として歴史的経緯や国際法上の観点から正しい知識と強い意識をもって、しっかりと国益を見据えた上で主張できる国民意識の醸成に取り組みたい。さらに、2012年度よりJC現役国会議員による超党派の議員連盟「JC議連」は、地方自治体の首長、議員にもネットワークを拡げている。彼らとともに、この問題について取り組んでいきたい。領土・領海問題の解決へ向けて今まで培った青年会議所のつながりと知識、経験全てを使い行動につなげる時なのである。

2012年5月ロシアに新政権が誕生し、北方領土問題については本格的な領土交渉に加速がつくであろう。また、ロシアだけでなく、世界各国の政治体制が転機を迎える今、領土・領海問題解決への交渉は政府が行う外交課題であるが、問題解決に向けた世論を形成する国民の意識をしっかりと喚起していきたい。私たちの意識が国家の主権と尊厳を守り、わが国を護ることにつながると確信している。

【視野を広げたエネルギー論議を】

東日本大震災にともなう福島第一原発事故は、世界中でエネルギー論議を活発にさせている。そして、原子力政策に対する考え方は大きく変化し、多くの国が「脱原発」、「縮原発」の方向に向かっている。わが国では2012年、今後のエネルギー・環境戦略を決定するために、2030年の原発依存度を基準に3つの選択肢（①ゼロ%シナリオ、②15%シナリオ、③20～25%シナリオ）を取りまとめ、「エネルギー・環境の選択肢に関する意見聴取会」を開催し国民的な議論を呼びかけた。しかし、この聴取会ではもっぱら原子力発電と電力が焦点となり、エネルギー全体を鑑みての議論が行われず、政策を導く十分な機会には至らなかった。

これからのエネルギー政策を構築する上では原子力発電、火力発電といった従来の発電方法のみにとらわれず、再生可能エネルギーを含め、ありとあらゆる可能性を検討し、安全性、経済性、環境性といった多面的観点からもバランスのとれたエネルギーを選択していかななくてはならない。従って、長期的な視点に立ち総合的に視野を広げてエネルギー論議は進められるべきである。しかし、これまで環境やエネルギーの問題については、政府や巨大な企業に任せておけばよいとして、国民が当事者意識をもってこなかった。私たちの生活を根底から支えるエネルギーについて、引き続きリテラシーを確立する運動を展開し、国民が知識と意識をもって、エネルギーを選択していけるよう取り組みたい。さらに、地域において従来通り大型発電所からの送電も利用しつつ、ソーラーパネルや風力発電を利用するなど企業や家庭が使用するエネルギーの供給源を多様化してエネルギーの効率化を図るスマート・コミュニティにも着目し、エネルギー活用の新しい仕組みづくり、まちづくりの取り組みを推進したい。

これまで原子力をひとつの大きな柱にしてきた日本のエネルギー政策は、大きな転換期を迎えている。エネルギーを考えることは、私たちの生活そのもの考えることである。大きな選択を迫られている今、私たちが当事者意識と次世代の視点を持ち、長期に持続できる確かなエネルギー政策をしっかりと考え、未来につなげていきたい。

【未来への投資】

東日本大震災において、冷静に対応し、秩序正しく反応し、国家として安定した礼儀正しい社会であることを示し、他者への配慮に溢れた行動をとり、互いに助け合った日本人の姿勢には世界から惜しめない称賛が送られた。なぜそのような振る舞いが自然とできるのだろうか。それは、私たちが日本人だからである。元来、教育には伝統の継承という側面があることから、この誇るべき精神性は教育により日本人に受け継がれてきたといえる。わが国の教育をめぐる各種法律や規則などの根拠となるのが、教育基本法である。この教育基本法は2006年に全面的に改正された。その重要な変更点である「道徳」と「伝統」は教育の根幹であり、根幹に立ち返った教育基本法

に鑑み、国家全体の事業として日本のかたちを次世代に受け継いでいく必要があるのだ。

戦後教育において、日本人が誇るべき和を重んじる精神や相手を慮る心よりも、個を重んじる思想を植え付けられたがゆえに、日本人の誇るべき道徳心が薄れてしまった。経済的な価値の過大評価が起こり、あるいは、今が楽しければよいといった刹那的な行動や、「公」の意識が希薄になり、自己の利益のみに関心が向き「自分さえ良ければそれでいい」といった利己的な風潮が蔓延している。法によって「道徳」と「伝統」という国家観を身につける機会を得たとしても、価値観が多様化した私たち大人が子どもの手本となり得ていないのでは国民に浸透することはない。子どもは時代を如実に映す鏡である。昔の子どもたちに比べ、現在の子どもの心は成長を支える基盤となる環境を大人が用意することができていない今、我々 J C が「徳育」に取り組むことこそが必要不可欠なのである。引き続き、日本 J C がこれまで展開してきた青少年育成のための様々なプログラムや L O M が行っている青少年事業を通して、道徳心を育む運動「徳育」を推進するとともに、子ども、そして、その範となる大人にとっても精神的・社会的規範となる「道しるべ」を示していきたい。

明治天皇が、帝国大学設立にあたり、ご視察された折に、修身科がないことを憂い 12 の徳目の明記された教育勅語を發表された。道徳教育は国家の根幹を担っているのである。広く道徳心を呼びかけた教育勅語さえも否定した戦後日本の教育から 60 年を経過して、ようやく現代の教育は本来あるべき日本の教育の姿を取り戻しつつある。未来への投資をしない国はやがて衰退するといわれる。この転機にあたり、国家として未来への投資である教育をしっかりと実践することで、未来とのつながりを強固なものにしたい。

【遙か遠くを見据えるリーダーを】

この国にリーダーと呼ばれる卓越した人材が出現しなくなってからもう何年も経つ。優れたリーダーが現れてこなくなってしまったのは、やはり戦後の日本の教育に起因するのかもしれない。東日本大震災の国難ともいえる状況を目の当たりにして、先頭を切って困難に立ち向かっていくリーダーを切望したのは、被災地の人たちばかりではなかっただろう。歴史を見ても、リーダーの資質、種類というものはそれぞれの時代に求められ誕生している。だからこそ、この転機には、リーダーの登場をただ漫然と待ち望むのではなく、卓越した人材を発掘しリーダーへと育成するのが急務かつ必要不可欠なのである。

日本 J C は 2012 年から「グローバルリーダー育成塾」を開講し、卓越した人材を発掘し、自国を誇れる歴史観と確かな国家観をもち、俯瞰的な想像力をもって弛まなく行動する、国の未来を切り拓く世界で通用するグローバルリーダーを育成してい

る。引き続きしっかりと継承し、経験を活かし進化させ、参加者全てのつながりを強固にして、より多くのグローバルリーダーの育成に取り組んでいきたい。人は遥か遠くを見るリーダーを羨望し、憧憬を抱くものである。坂本龍馬に憧れをもつ多くの人も、薩長同盟という離れ業をやったのけた実績ではなく、自らの将来や日本の未来という遥かかなたを見据えていたその痛快さに惹かれているのではないだろうか。「グローバルリーダー育成塾」により、遥か未来を見据え、行動するリーダーが誕生すると確信している。

【時計の針をすすめよう】

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、かつてない規模の自然災害であり、後に起こった原発事故は未曾有の事態であった。その大震災から2年が経過しようとしているが、今なお、わが国は国土の5分の1を襲った震災からの復興に苦しんでいる。地道な復旧活動は少しずつ進んでいるものの、被災地には未だ震災がれきが積み上げられその惨状が被災者生活の目前に存在し、原子力発電所周辺住民の困難な状況は解決する目途も立たず、真の復興には未だ遠き道のりであると言わざるを得ない。

この大震災がもたらした最大遡上高40.1mにも上る鉛色の大津波は、全てを一瞬で消滅させた。そして、家族を失った被災者の多くが、「私の時計はあの日から止まったままだ」と語るように、東日本大震災は多くの人々の時間を止めてしまったのである。私はこの大震災を単純なひとつの災害ではなく、失われた家族や人々とのつながり、生まれ育った故郷の風景、住み暮らす家、学校や会社など、ありふれた日常との「断絶」を一人の被災者に一度に課した悲惨な事故と捉えている。今上天皇から私たち国民に発せられた御言葉にもあるように、何よりも被災地と被災者に心を寄せることこそが、震災からの復興が進む原動力であると思う。そして被災地に多くの希望が生まれるように、時計の針をすすめたいと切に願っている。

『時計の針が前にすすむと「時間」になります 後に進むと「思い出」になります』
寺山 修司「思い出の歴史」より

私たちは、震災直後から今日まで全国の多くの仲間とともに、復興に向けた支援活動に取り組んできた。震災から一日も早い復興を成し遂げるために、私たちは「決して歩みを止めない」という強い決意をもって、変化する被災地の状況とニーズをしっかりと捉えるとともに、「東日本大震災復興指針」に基づき、今必要とされる支援活動を進めていきたい。

また、震災だけでなく、豪雨による災害も多発しており、これから起こりうる自然

災害に備え、地域の防災・減災力を向上する防災教育を推進するとともに、新しい防災の物資備蓄パッケージである J C - A I D を普及させるなど広域災害で起こりうる被害に迅速に対応できるように取り組んでいきたい。さらに、既存の J C の災害ネットワークを行政や企業や他団体との連携を図れる強固なものに発展させることにも取り組んでいきたい。

未曾有の災害で失われた多くの悲しい犠牲の代償として得た学びは、私たちの「決して忘れない」という強い決意により未来への希望につながると確信している。

【地域から日本を再生する】

「ソーシャル・ストック」という概念がある。直訳すれば「社会資本」だが、従来のハードな資産のみならず、地域の歴史や文化、伝統、習俗や景観など、その地域社会に永年に亘って大切にされてきたソフト資産を含む概念として使われている。まちおこしや村おこしは、この「ソーシャル・ストック」を地域の人々が発見し、まちづくりのコンセプトのベースとして共有することからはじまるのである。

それぞれ人に違いがあるように、地域にも地域の数だけ違う歴史や文化や特徴がある。また、そこには地域特有の問題があり、その地域を輝かせるためには、それぞれの地域が再生を目指すという同じ目的をもつとしても、その手段は画一的なものではなく、そこにしかない解決方法を見出して、取り組むべきなのである。また、全国を見渡しても市民を導き、問題解決に向けて積極的に取り組むはずの地域のリーダーは少なく、切望する声が高まっている。自らが住まう地域であるからこそ情熱と気概をもった人材をこれまで培ってきた日本 J C のプログラムを積極的に活用することにより、地域のリーダーへと育てていかなければならないのだ。

そして、地域にはそれぞれ独自の歴史と文化が溢れており、そこには現代まで継承し続けてきた人々がいる。また近年、陶磁器、木工品、織物など地域の伝統技術は、その人々の手により、最先端のデザインや技術だけでなく、その背景に纏わる興味深い物語などが融合し、より価値あるものとして発信されている。そこには地域を想う人と人との信頼により結ばれたつながりが必ずあるのである。日本 J C はまだ地域に眠っているであろう食、伝統工芸、歴史資産や生活文化など、さらにはその地域の誇りとなっている芸術にも着目し、有形無形に関わらず、地域資源を磨きあげ「地域のたから」を創造するという取り組みを支えていきたい。その地域の人々でしか加えられない物語を活かして、磨きあげる技術ともいべき想像力をもっている人材も育成することで、人と人、人と地域、地域と地域をつなげていきたい。

そこにしかないものだから、その地域の「ソーシャル・ストック」があるからこそ活かされる地域資源がまだまだ眠っている。磨きあげられた「地域のたから」が新たに地域の代名詞として広まることが地域の再生につながると確信している。

また、日本経済を再生させる原動力が地域にあることはいうまでもない。そして、地域においては自立した持続的、安定的な発展に寄与する輝く企業の存在が必要なのである。しかしながら、長期に亘るデフレに加え、今後さらに進行する少子高齢化、人口減少は、確実に国内市場を縮小させる。また、労働力の減少による生産性の低下を加速させ、国内を主たる市場とする地域に根ざした多くの企業は、苦境に立たされる可能性がある。青年会議所メンバーのほとんどが経済人であることから鑑みても、青年会議所運動の力の源泉である地域企業の未来像を今、しっかりと描くことは我々にとっての責務である。

少子高齢化社会における、わが国の雇用と経済活動の根幹を支える地域企業の成長に向けたモデルづくりに取り組むことで、疲弊する地域の未来を切り拓くとともに日本経済の再生につながる道筋を確かなものにしたい。

【我々は日本そのものである】

2012年、日本JCはJCI ASPAC香港大会をはじめとする4つのJCIエリア会議において、JCIオペレーションホープを通して世界中の仲間からいただいた東日本大震災に対する支援に感謝を伝える機会があった。「ありがとう」の気持ちを伝えた我々に、各国メンバーから涙ながらにスタンディングオベーションが送られた。私は世界とのつながりを感じるとともに、我々が、日本国の代表として受け止められていることを強く感じた瞬間であった。現在、国際青年会議所（JCI）は120を超える国と地域によって構成されており、我々が日本そのものであるとの意識をもって海外との接点をもつことは、世界の中の日本を身近に感じるができる機会であり、国際社会におけるわが国の役割を考える貴重な機会になると思う。国益を守る外交は政府が行うものである。我々は国家青年会議所（NOM）として民間外交を基軸とした世界平和に寄与する取り組みを行うことで、国際社会の一員として、また、JCIのリーディングNOMとしての役割と責任を果たすべきなのである。

日本JCでは、JCIが推進する国連ミレニアム開発目標（UN MDGs）を切り口とした運動をすでに進めている。引き続き2015年の達成に向けて、UN MDGsの意義と目的を子どもから大人まで広い世代に広げるとともに、マラリア撲滅運動の一環であるJCI NOTHING BUT NETSキャンペーンを全国の各地域で展開していきたい。国内における、この草の根レベルの取り組みを、国際社会への貢献にしっかりと結びつけたいと思う。

2012年、これまで取り組んできた「OMOIYARI」プログラムがJCI公認プログラム（JCI公式コース）として承認された。日本の美徳の象徴が、より力強く世界に向けて発信されることは世界平和の実現に向けての前進を表している。日

本は世界になくなくてはならない国であるという誇りをもって、自ら一人ひとりが外交の担い手であることを自覚し、積極的な民間外交や互いの文化を尊重し合う相互理解により恒久的な世界平和の実現へと確かな歩みを続けていこう。

【世界の中の日本】

近年、国際社会では中国の成長について頻繁に報道されているが、私たち日本の成長はもっと凄まじかった。年率30%近い成長が毎年東京オリンピックの開催まで続き、日本の国内総生産（GDP）はアメリカに次ぐ世界第2位となった。しかし、現在は中国に追い抜かれGDPは第3位となり、未だ交渉の低迷する環太平洋パートナーシップ（TPP）協定をはじめとした自由貿易の未来は迷走している。過去40年間というもの日本の企業は国内市場を制することで世界において地位を築いてきたが、日本経済全体が縮小傾向にある今、国内だけでなく世界の市場で立ち位置を確保しなければならない状況にある。民間外交の担い手として2010年より携わってきた、世界のアントレプレナーたちが集う、G20YEAにJCが日本の青年団体をまとめ、積極的に参画していくべきと考える。

また、いうまでもなく世界の経済の中心は大きく西から東へと、つまりアジアへと動き始めている。アジアにおける各国の勢力均衡が変化する中、日本がアジア、特に東アジアの近隣諸国とどう向き合うかは、わが国の繁栄にとって肝要な点となる。とりわけ中国との関係は、アジア地域の安定のために重要なものである。中国とはお互いがもつ歴史認識の相違など、解決に向けて取り組まなくてはならない問題が多く存在するものの、日本と中国の相互発展につながる民間外交を考えるに、相互依存のもと、地域間の関係を強化することは必要不可欠であると考え。1986年からのカウンターパートである中華全国青年聯合会と2009年に合意した「日中中期ビジョン5ヵ年計画」に基づき、お互いの地域間の交流をしっかりと図り、継続して相互理解と友好交流による民間外交を行うとともに、未来を見据えた効果的なパートナーシップのあり方を考えたい。また、近隣のアジア諸国と相互発展をしていくために、引き続き、相互理解の機会を創出することで、アジアから世界の平和に貢献していきたい。

自らの立場を主張しつつ、国際社会に対して主導的役割を果たしていく日本であるために、民間外交の一翼を担う国家青年会議所として、未来における世界の中の日本の確かな立ち位置をしっかりと描いていきたい。

【日本の青年会議所運動】

青年会議所は紛れもなく地域のために存在する。それは、それぞれの地域社会がも

っている問題を青年の英知と勇気と情熱をもって解決することにこそ、青年会議所の価値が生まれるからである。我々は「明るい豊かな社会」という理想を掲げ、未来づくりへの信念を決して曲げることなく、青臭くも侃々諤々と議論を繰り広げ、責任世代の希望と行動を自己開発しながら実現させるのが青年会議所運動であり、青年団体は数多くあるが、その真っ直ぐさゆえ、唯一無二の存在なのである。全国の698 LOMには間違いなく「学び舎」としての魅力があり、地域を想い、学び得たことを行動で示し地域社会へ還元し続けてきたのである。だからこそ、自信をもって市民・行政・企業・他団体とも連携し、我々の描く「明るい豊かな社会」である「生き抜く力」と「生かされていることへの感謝」が漲る社会に向かって、運動を展開しようではないか。

現在、多くのLOMが会員減少に悩み、組織の運営に苦慮している。私はLOM会員の増強に取り組むにあたり、今一度私たち自らがどう成長してきたのか、どのように地域と向き合ってきたのか、そして自分たちの運動で地域がどう変化したのかを、これから出会うであろう仲間自らの経験として熱く語り続けることが必要であると思う。なぜなら、その語り手はJAYCEEそのものであり、地域を想う人間そのものであり、自分に感動を与えた人や出来事で漲るその声は必ず相手の心に響くものとなるはずだからだ。まちづくりには、多くの人々の共感を得なくてはならない。つまり、それは「一人のまちづくり」から「二人のまちづくり」、「三人のまちづくり」へと変えることであり、青年会議所が意識変革の団体として、基本運動であるLOM会員増強に真摯に取り組む理由なのだ。また、自分を開発し自分を高めていく喜びも青年会議所では経験することができる。そのためには、心の琴線に触れ、自分を変えてくれる環境に身を置くことが必要である。ぜひ理事長のみなさんには、多くのメンバーを日本JC、地区協議会、ブロック協議会、またJCIへと出向させていただきたい。さらに、国内外で開催される諸大会・事業へも積極的に参加させていただきたい。

この大きな転機を迎えた今だからこそ、全国各地にいるJAYCEE一人ひとりがそれぞれの地域で今まで以上に意欲的に活動できるように、意識変革を誘発するインセンティブを互いに提示し、全国698 LOM、40,000名の同じ志をもったメンバーとともに、青年の英知と勇気と情熱をもって、地域をそして日本を照らす青年会議所運動を進めよう。

【地域を輝かせる組織であるために】

日本JCは、全国698の会員会議所によって構成されており、いうまでもなくその会員会議所のために存在している。従って、本会、地区協議会、ブロック協議会は、各地の青年会議所運動が価値をもって展開され、地域にとってなくてはならない信頼される青年の団体であるために、全てにおいて会員会議所の発展につながる運営をし

なくてはならない。そして、その運営にあたっては地域によって異なる悩みを抱える会員会議所に、よりきめ細やかなサービスを提供するために、あらためてガバナンスを強化し、一貫性のある情報の受発信をするとともに、本会と地区協議会、ブロック協議会がそれぞれ有機的に結びつく組織連携が必要である。

東日本大震災を鑑みても広域的で各都道府県を横断的に連携することが求められている今、日本J Cの組織である地区協議会は、10地区それぞれの総合調整機関であり、地区協議会会長は、日本J Cの議決権を有する常任理事でもあることから、会員会議所と本会を双方向でつなげる担いがある。日本J Cが展開する運動、事業の多くの情報を各地へ届けてもらうとともに、地域から日本を輝かせる観点に立ち、ともに運動を進めていきたい。そして、47ブロック協議会においては、各々の伝統と特色を持ち味としながらも会員会議所に最も身近で頼られる存在であり、有事の際の連携調整はもちろんのこと会員会議所の抱える問題や課題がそれぞれ違うことを鑑みるに、ブロック協議会のもつ可能性は幅広い。会員会議所にとって、2013年11月に移行期間が期限を迎える公益法人制度改革など、最も必要なサービスを提供していきたい。さらに本会は、公益社団法人へ生まれ変わり4年目を迎え、また、団塊ジュニア世代卒業後の今後の著しいメンバー数の減少も鑑み、あらためて組織運営を点検し公益性と組織の透明性をもち続けるとともに、会員会議所を地域において輝かせ続ける組織の進化に取り組みたい。そして、地域を照らす運動と組織を輝かせるために会員会議所を支えていくとともに、未だ青年会議所運動が存在しない地域にも向き合い、その地域の発展に不可欠なLOMの拡大にも取り組んでいきたい。

日本J Cが誰のための組織であるのか、その我々の責務を日本J Cのこれまでの弛まぬ前進を止めることなく、会員会議所の負託と信頼にしっかりと応えていきたい。

【決断できる日本を創ろう】

東日本大震災のあの日から、日本は新しい時代へのスタートを切った。わが国は再び希望を取り戻せたのだろうか。未曾有の惨事は予測できないものであったが、国家としての混迷、停滞は容易に想像できたかもしれない。今の日本は決断をせずに、問題解決を先送りすることが繰り返されている。

私たちは、日常生活のささいなことや人生において、どんなに迷ったとしても進む道を選ばなくてはならず、多くの判断のもと、決断を重ねながら未来に向かって進んでいる。世界を見ても変化が早く、その変化に加速がつく時代。一瞬の判断が取り返しのつかない時代となった。新しい変化は生まれては消え、掴みかけた問題解決への道筋や、ヒントは瞬間間に過去のものとなる。私たちには、これまで以上に変化を的確に捉える能力が求められている。そして、未来は私たち主権者の決断に基づく行動が創るのだという気概が必要なのである。私たちの決断の先に日本の未来があるのだ。

我々には、身近な社会を変え、国を変えていく無限の可能性のあることを私は信じて疑わない。いつの時代も斬新な創意に満ちた青年の力こそがその原動力になったことは歴史に明らかなことである。今、日本は世界のどの国も経験したことのない、手引きのない問題に取り組んでいる。その意味において、私たち青年という責任世代が未来への希望をもって問題解決に向かって決断を積み重ねていくことは、私たちがお手本を創ることになり、日本が世界をリードする国に導ける可能性がある。何も解決策がないのであれば、自分たちで創ればよいのだし、もともと私たちは、そうやって幾多の困難に取り組んできたのである。乗り越えていく日本の経験を世界に発信することで、国際社会が抱える様々な問題の解決に貢献することができるのではないだろうか。

さあ旅立とう。今日とは違う明日を始めるために。今日を未来へとつなげるために。理想とする新しい日本に向かって。決断できる日本を創ろうではないか。

【結び 勇壮なる日本へ】

我々は振り返ることを許されていないわけではない。しかし、振り返ることだけでは未来を創ることはできない。ただ、未来をみつめる強い信念こそが、現状を突破する術であることを知っているはずだ。

『人は現状を見て、なぜこうなのかを問う。

私はまだ実現していないことを夢に見て、なぜできないかを問う。』

ロバート・ケネディ

未来を夢見るには、前向きな姿勢とそれを描く力が必要である。夢を叶えるには、ぶれることのない強い信念で新しい変化を生み出し続けることが必要である。

その変化の先端にいるのが我々 J A Y C E E なのだ。絶えることのない前進を続けよう。悲しみも喜びも引き連れて、たとえ壁が高くとも、前が暗くとも。消えない希望と終わらない夢を乗せて、妥協することなく未来へ前進し続けるのだ。新しい時代へ日本を導いていこう。

改めて、ここに宣言する。我々は、未来を創る。もう一度真っ白なキャンパスに過去からつながる未来への希望を一本一本書き足していこう。表現しよう。その一本一本は、全てにつながっているのだ。

勇壮なる日本へ。気概と覚悟をもって、我々は人々の燈火となる。

公益社団法人日本青年会議所
2013年度 基本資料

基本計画

(基本理念・基本方針)

基本理念

未来への決断

全てとの「つながり」による

勇壮なる日本の創造

基本方針

1. 自覚と気概をもった新しい日本の創造
2. 未来を切り拓く日本人の育成
3. 「つながり」に溢れた輝ける地域の再生
4. 民間外交を基軸とした恒久的正解平和の実現
5. 公益正と透明性をもち続ける組織への進化

近畿地区協議会基本方針

斬新な創意に満ちた青年の力による

勇壮なる近畿の実現

近畿地区担当常任理事 山下 憲太郎

近畿は多様な地域・生活文化を持ち民主導による独自の地域力を醸成させ幾度の困難を克服し、発展し続けてきましたが、民が協働し地域を安定的に持続させる本来の近畿のあるべき姿を見失う危機を迎えています。地域のさらなる発展が求められている今だからこそ責任世代である青年の新しい英知を導入し踏襲すべきものは踏襲させ、変えるべきものは変える斬新な創意に満ちた青年の力による勇壮なる近畿の実現をしなければなりません。

まずは、和を重んじ相手を慮る日本の伝統的精神を次世代に継承するために、日本人の誇るべき道徳心が希薄化した中で子どもや範となる大人に道徳心を育む運動である徳育を推進します。そして、地域発展につながるべき意識を広範囲に伝播するために、地域貢献活動する人材を発掘しその活躍と成果を称賛する機会を創出するとともに事業自体の価値観を高めます。また、自国を誇れる歴史観と確かな国家観をもち俯瞰的な想像力をもって行動するために、未来を切り拓く世界で通用するグローバルリーダーを国際的な社会貢献活動を通して育成します。さらに、一日も早い災害復興を成し遂げるために、変化する被災地状況とニーズを捉え今必要とされる支援活動を実施します。そして、一年の活動で蓄積した運動を広く地域社会に発信するために、公益性を踏まえ参画した一般市民と共に学べる地区大会を実施します。また、本年度の集大成の場である全国会員大会を会員意識の昂揚を図るとともに開催地域の発展につなげるために、開催地区として運営を支援します。さらに、地域から日本を輝かせるために、本会の運動・事業を会員会議所へ推進します。

全てのコミュニティーとつながりを深め未来を描く力と決してぶれることのない強い信念のもと、自分たちの努力が地域や日本の進歩を生むと固く信じ、責任世代として運動を弛むことなく展開することで新しい変化を生み出し続ける「勇壮なる日本」を創造します。

<事業計画>

1. 道徳心を育む運動「徳育」事業の実施
2. 人間力大賞の実施
3. GTS事業の実施
4. 災害支援活動の実施及び地域連携による支援体制の確立
5. 近畿地区大会の開催
6. 第62回全国会員大会奈良大会への協力並びに支援
7. 本会の運動・事業の推進

京都ブロック協議会 事業計画

全てとの「つながり」から始まる

勇壮なる京都の実現

京都ブロック協議会 会長 山添 宏明

京都は各々の地域が歴史や文化に恵まれ世界に誇れる地域力溢れたまちであります。近年の急激な人口減少から少子高齢化や過疎化等様々な問題に直面し、地域力が低下し続けている状況にあります。魅力に溢れ輝き続ける地域の再生が求められている今だからこそ、責任世代の中核を担う我々は弛まぬ努力と強い信念をもって人や地域と真摯に向きあうことで、全てとの「つながり」から始まる勇壮なる京都の実現をしなければなりません。

まずは、政策本位による政治選択が浸透するために、国民主権の確立を図るマニフェスト型公開討論会の開催やe-みらせんの運用を推進します。そして、日本国憲法に対し、国民が主権者としての権利と義務を自覚するために、憲法論議の意識喚起を促す国民参加型事業を開催します。また、広域災害に対して連携した支援活動を行うために、諸団体等と連携し協働できる組織を構築します。さらに、我々の運動がより大きな力を発揮するために、会員拡大セミナーを実施しLOMを支援します。そして、会員の資質と運動への意欲を向上させるために、意識変革を誘発するブロックアカデミー事業を実施します。また、魅力溢れた輝く地域力の再生のために、市民とともに学び行政・関係諸団体と連携し地域のたから創造につながるブロック大会を実施します。さらに、未来を切り拓く世界で通用するリーダーを育成するために、自国を誇れる歴史観と確かな国家観をもち、弛まなく行動できる卓越した人材育成の国際事業を実施します。そして、全国会員大会を会員意識の昂揚を図るとともに開催地域の発展につなげるために、地区と連携し運営を支援します。

我々JAYCEEは気概と覚悟をもって人々の燈火となるべく、人と地域全てとのつながりに真摯に向きあい運動を発信し、消えない希望と終らない夢を描きながら未来へ向かって前進し続けることで、魅力に溢れた輝く京都を創造し「勇壮なる日本」を実現します。

<事業計画>

1. 政策本位による政治選択が浸透する事業の開催または支援
2. 国民参加型による憲法に関する事業の開催
3. 広域災害に対しても機能するJC災害ネットワークの構築
4. 会員拡大の推進
5. ブロックアカデミーの実施
6. 京都ブロック大会の実施
7. 輝ける地域の再生につながる事業の開催
8. 未来を切り拓く世界で通用するリーダーを育成する国際事業の実施
9. 第62回全国会員大会奈良大会への協力並びに支援

2013年度 公益社団法人乙訓青年会議所
理事長所信

公益社団法人乙訓青年会議所
理事長 岡村 猛

はじめに

「まちづくり、ひとづくり」乙訓青年会議所は発足以来、地域に根差し、時代にあった運動を展開して参りました。まちを形成する自然、環境は絶えず変貌を繰り返します。そこに暮らすひとの営みはいつの時代も変化し、逆境に出会い、試行錯誤を繰り返し、成長過程を歩んでいくものです。志高い先輩方は乙訓の問題提起に対し、勇猛果敢に立ち向かい活動してこられました。掲げる目的達成の為、何をすべきか、どう動くべきか、私達はどの様な状況からも逃げる事無く立ち向かう必要があります。

青年会議所は単年度制であり、その活動期間は青年期が終わりを告げる40歳までです。しかし青年会議所が掲げる理念の継承に終わりが来る事はありません。青年会議所メンバーとして、今ここに活動している痕跡は未来永劫愛する乙訓の理念として生きていきます。「過去、現在、未来」全て一本の線で繋げる為、我々はその場、その時、その一年、決して手を抜く事無く活動に邁進しなければなりません。それが乙訓青年会議所メンバー全員に課せられた使命です。

直心熱動

2004年、私はこの栄えある乙訓青年会議所に入会しました。青年会議所メンバーであれば誰しも青年会議所での活動意義に直面し、悩み、時には活動から目を背けたくなった事があるでしょう。勿論私にもありました。その中、私は理念を強く抱く先輩方に出会い、共に悩み励まし合う事の出来る友人達に囲まれ、愛すべき後輩達に支えられました。己の意思で門を叩いたこの乙訓青年会議所です。ここに居るのは間違いなく「我以外皆師なり」私は組織としての目的達成、そして私自身の成長の為、真っ直ぐな心で、情熱的に活動して参りました。

「素直になりなさい」よく言われる言葉です。どんな状況でも全てに対し学ぶ心を持ち、私心にとらわれず受け入れる。そうすれば物事の真実が明確になり、自分を信じ真っ直ぐな心で行動に移す事が出来る。「直心熱動」これは私が乙訓青年会議所に関わる全ての人達と共に行う情熱的な活動を通じて得たものであり、生涯の指針として忘れる事無く持ち続ける理念です。直心の気概を持ち、勇猛果敢に熱動すれば、誇り高く青年会議所活動に取り組む事が出来、組織の目標が達成され、必ずや個々の自己成長に繋がります。

社会道德の向上を目指し、郷土愛高まる乙訓を創造しよう

善悪の判断を行う道德心は個々の価値観により形成されます。それは経験、学習、環境により形成されます。この価値観は時と場合によって悲劇を起こします。連日の様に報道される凄惨な事件は、自分さえよければいい、周りは関係ないと言う価値観が招いた結果であると考えます。ひとを思いやる心を持ちなさい、ひとに迷惑をかけてはいけません。私達は子どもの頃から当たり前前として教えられて来ました。地域、友人、学校、職場、ひとが集まれば社会が形成されます。社会の秩序を守るべき社会道德、この当たり前前の教えを大切に持てば郷土愛に満ち溢れたひととまちが形成出来るはずです。

現在の子ども達を取り巻く環境は、私達が過ごしてきた時代とは違います。青少年犯罪の凶悪化やいじめ等の痛ましい事件は、もはや他人事ではありません。子ども達の健全なる育成の為に、まず私達大人が幼少の頃より教えられ培ってきた社会道德について真摯に学び、子ども達に何が善で何が悪なのか

を明確に伝える事が重要です。自信と責任感を持って堂々と子ども達に進むべき道を教える事が乙訓地域の社会道徳の向上に繋がります。その上で、子ども達に学びの場、環境を与える事が必要となります。ひととの関わりを学ぶ事により相手を思いやる気持ちが芽生えます。自然環境に触れる事により郷土愛を育む事が出来、命の大切さを知る事が出来ます。学校、家庭での教育に加え地域全体で青少年育成に取り組めば、未来の地域を支える子ども達と共に、地域を愛する乙訓を未来永劫形成していく事が出来ます。

まちは、ひとと環境の共生により成り立っています。乙訓の発展に資する為、まず地域市民が今まで以上に郷土愛を高める事が必要であると考えます。生まれ育ち、生活を営む乙訓は心安らぐ場所であり生活の基盤となる場所です。現在、乙訓地域には約15万人の方々が生活を営んでおられます。乙訓を形成する地域市民同士が郷土愛を高める為に、乙訓地域にしかない魅力を導き出す事業を構築、発展させていく必要があります。乙訓青年会議所が長年開催して来た乙訓水辺フェスティバル事業における真の目的は、乙訓地域の財産である豊かな自然、歴史、文化と触れ合う事により多種多様な価値観を持つ地域市民が共通の目標を掲げ乙訓を愛する事にあります。郷土への愛がひとを幸せにし、郷土の恵みがひとを生かす真意を青年会議所として乙訓地域に発信していく必要があります。

JAYCEEとして社会的責任を果たそう

未曾有の経済危機と言われ、政治も迷走を続ける今、私達は何をすべきでしょうか。戦後、先人達は荒廃の中から生きる希望を導き出し、見事な復興を遂げました。厳しい状況におかれた時、人間は考え悩み成長していきます。逆境は人間を成長させるチャンスであり、どの様な状況におかれても社会的責任を果たす事の出来る人間形成が今の時代必要であると考えます。

青年会議所メンバーとして、また一社会人として社会的責任を果たす為には、行動を内面から支える人間力の向上を目指す事が重要です。人間力の構成要素は自己の表現能力、主体性のある行動力、本質を見抜く洞察力から成り立つと考えます。この力は思いやる事、助け合う事、感謝する事を念頭におけば必ず身に付きます。経営は経営者の能力だけでは成り立ちません。地域活動はリーダーの想いだけでは実践出来ません。企業を形成しているのは経営者と企業を支える社員であり、地域活動は関わる全てのひとの協働により実践されます。相手の立場、自分の役割を認識し、各々があらゆる場面で能力を発揮出来る人間力を向上させる事が出来れば、どの様な荒波にも負けない魅力ある人間として成長していきます。

乙訓青年会議所の社会的責任として、乙訓青年会議所の運動を明確な情報にして、行政や地域諸団体に対し発信しなければなりません。地域の為に運動する団体は私達だけではありません。私達が住む乙訓には形態に違いはあっても乙訓の為に運動されている団体が多く存在します。乙訓青年会議所、そして地域諸団体が行う運動を互いに検証し合う機会を継続発展させ、組織と組織の絆を深める事が出来れば必ず大きなネットワークとなり乙訓の発展に繋がります。周りを知る為には、まず己を知る。今一度創始の精神を振り返り、乙訓青年会議所が地域の中核団体として存続する意義を知る必要があります。そして青年会議所にはJCIを始め、日本青年会議所、近畿地区協議会、京都ブロック協議会など多くの組織があります。各地域においての活動、そこにも多くの学びがあります。出向先でメンバーが頑張っている姿、そして各々の活動意義を明確に発信する事が仲間としての責任であります。

絆を結び、未来へ継承しよう

青年会議所には多くの出会いがあります。入会しなければ出会う事の無かった仲間。そこで築いたひととの繋がりは絆となり、必ず人生において大きなものとなります。相手の立場に立ち、熱く夢を語り合える関係を構築出来れば、何事にも揺るがない絆の構築に繋がるはずです。

青年会議所活動を通じ互いに切磋琢磨する中で、自分の存在意義に悩む事もあるでしょう。しかしその中で仲間と苦楽を共にし、笑いあい、時には議論をし、邁進していくものです。自己の主張を理解して欲しいのなら、素直な心で相手の考え、相手の立場を理解する事です。乙訓青年会議所での活動に一切の妥協をする事無く取り組む為、会員同士が交流し、互いの考え、理念を熱くぶつけあう事が必要です。今の自分が居るのは周りの人達のおかげ、感謝の念を込め親睦を深める事も青年会議所活動において大切な役割です。それが青年会議所の基盤としてしっかりとした組織力ある団体への構築に繋がります。

私達の理念は絶えず継承していく必要があります。私達が青年会議所活動を行う期間は限られています。私達が卒業した後もこの理念を継承してくれるまだ見ぬ仲間を探していかなければなりません。青年会議所しか無かった時代から青年会議所もある時代と言われ、昨今の経済状況の中、会員拡大は容易な事ではありません。しかし私達が常に高い志を持って活動し、私達の魅力を発信し続けていけば、それに共感する青年は数多くいるはずで、会員拡大は乙訓青年会議所メンバー全員で行わなければなりません。まず一人が一名の入会候補者を自分の足で探し、メンバー全員で笑顔を持って迎えて下さい。地域市民との交流の場では、会員拡大への気概を持って行動して下さい。仲間として迎える事となれば、地域社会に貢献できるJAYCEEを育成する様努めて下さい。そこに必ず固い絆が生まれるはずで、その絆は私達が乙訓青年会議所を去った後も揺るがないものとして残り、地域活動の源として継承されていきます。

組織の礎として、運営基盤の整備に努めよう

乙訓青年会議所は公益社団法人として3年目を迎えます。名実共に公益団体として活動している今こそメンバー一人ひとりが公益団体の一員としての責任感を強く持つ必要があります。乙訓地域に開かれた事業を開催する為、私達は乙訓地域の公益性について絶えず考察していく責務があります。乙訓地域を知り、何が求められているのか、どうすれば地域の方々の利益となる事業開催が出来るのかを常に模索する事が重要です。公益団体として、地域からの負託と信頼に応える為にも、事業内容や予算などに細分化したチェック機能を持たせ、公益性と透明性のある運営基盤を確立する事が必要です。

青年会議所は会議を経て全ての物事が決まっていく組織です。青年会議所の醍醐味は、会議の場に着けば誰も平等に意見を述べる事が出来、賛同を得られればそれが反映され取り入れられます。会議に参加する側と設える側の両者が会議の意義を理解し、より精度の高い議論を交わせる様に考慮しなければなりません。我々の運動が効果的に行われる様、議案上程のシステムやルールを周知徹底する事が重要です。乙訓青年会議所が培ってきた素晴らしい会議運営形態を継承し、精度の高い会議を行ない、乙訓地域に発信出来る為に活動していく必要があります。公益社団法人として、活動指針、活動報告の明確化が常に要求されます。厳密な運営を目指し、事業開催に向け、適正に予算編成、予算執行の審査、知的財産である肖像権や著作権に対する認識を高め管理体制を確立し、メンバー全員がこれらを理解した上で活動を行う運営基盤の形成が必要であると考えます。組織の骨格を形成する為、地域に貢献し、明るい豊かな社会の実現を目指す組織運営に必要なものは何であるか、検証し実践していく事は大きな使命です。

次代も地域の中核たる乙訓青年会議所を目指そう

乙訓青年会議所では、1998年に2020年ビジョンが策定されました。どのような時代変遷の中でも、普遍的な乙訓青年会議所としてのビジョンを策定する必要があるとの結論に達し、2020年ビジョンの理念「地球市民意識あふれる乙訓」が完成しました。2009年には新5ヵ年行動指針が策定され、今日まで青年会議所運動を展開してきました。

本年度は新5ヵ年行動指針の最終年度を迎え、この5年間の活動を検証し、次代へ向けた新たな指針の考察をしていかなければなりません。2020年ビジョンの達成に向けて乙訓青年会議所が歩んできた道を、より大きな歩みへと導く方向性をつける必要があります。

次年度乙訓青年会議所は、節目となる35周年を迎え、来たる40周年に向けての組織目標を明確にしなければなりません。それは私達が今後も乙訓地域の中核として地域貢献、地域振興に努めていく指針ともなります。その為にメンバー一人ひとりが今一度、私達は何の為に活動をし、何に向かっているのかを再認識する事から始める必要があります。そして新たな行動指針を策定し次年度以降への礎を築かなければなりません。

先輩諸兄が作り繋げてきた、地域からの信頼と素晴らしい理念を持ったこの乙訓青年会議所が、地域の中核として在る為にも、JAYCEEとしての誇りと気概を持って、まずは本年度の活動に全力で取り組みましょう。

青年会議所活動にノーサイド無し

青年会議所は自分の目標を確認、実現出来る場であります。入会の動機は様々だと思いますが、きっとそれぞれに、入会する事で自分に何かを得たいと考えたのではないのでしょうか。青年会議所で沢山の活動を率先して行動し、素直な心で熱い想いを持って取り組めば、その想いは必ず相手に伝わると信じています。その熱い想いが込められた活動がメンバーのみならず、地域市民に感動を呼び、大きな力となる事と確信しています。青年会議所活動にノーサイドはありません。その熱き想いは青年会議所を卒業した後も乙訓青年会議所、乙訓地域に刻まれ、継承されていくでしょう。そして皆様は青年会議所で得たかけがえのない友人と共に、培った経験を活かし各々の活動に邁進していくでしょう。その為に今を大切に、直心且つ熱動的に青年会議所活動に取り組んで下さい。私は乙訓青年会議所第34代理事長として、メンバー全員と真剣に向き合い、先頭に立ち、一年間邁進する事をここに約束します。

2013年度 公益社団法人乙訓青年会議所
スローガン・テーマ

【スローガン】

直心熱動

【テーマ】

一次代へ繋げよう JAYCEEの誇り、すべては輝く乙訓^{まち}の為に一

2013年度 公益社団法人乙訓青年会議所
基本理念・基本方針

【基本理念】

新5ヵ年行動指針に基づいた活動

素直な心で仲間を信じ、情熱を持って行動し、笑顔が溢れる乙訓^{まち}の創造を目指す

【基本方針】

社会道徳の向上を目指し、郷土愛高まる乙訓^{まち}を創造しよう

JAYCEEとして社会的責任を果たそう

絆を結び、未来へ継承しよう

組織の礎として、運営基盤の整備に努めよう

次代も地域の中核たる乙訓青年会議所を目指そう

2013年度 公益社団法人乙訓青年会議所

事業計画

(1) 青少年育成、教育文化スポーツ交流事業

文化少年団事業 年9回の開催

乙訓ふるさとふれあい駅伝の参画協力

青少年育成研修事業の開催

(2) まちづくり事業

乙訓水辺フェスティバル事業の開催

まちづくり事業の開催

二市一町地域検証会の開催

(3) 地域経済及び地域振興の研究、研修事業

経営研修事業の開催

地域振興検討会の開催

ひとづくり研修事業の開催

(4) 会員交流及び組織維持目的事業

会員交流会の開催

会員拡大を目的とした説明会等の開催

新人会員の勉強会の開催

(5) その他、本会の目的を達成するために必要な事業

35周年記念式典及び記念事業の準備

新5カ年行動指針の検証及び次代へ向けた行動指針の構想

(6) JCI・公益社団法人日本青年会議所・近畿地区協議会・京都ブロック協議会への参加・協力

JCI: ASPAC・世界会議

公益社団法人日本青年会議所: 京都会議・サマーコンファレンス・全国会員大会

近畿地区協議会: 近畿地区大会・各種事業

京都ブロック協議会: 京都ブロック会員大会・各種事業

2013年度 公益社団法人乙訓青年会議所
委員会・会議体活動計画

1. 全委員会・会議体

- ① 会員拡大活動と会員拡大委員会への連携
- ② まちづくり事業、青少年育成事業への参加と協力
- ③ ビジョン会議との連携と推進

2. 「社会道徳の向上を目指し、郷土愛高まる乙訓^{まち}を創造しよう」(まちづくり室)

(まちづくり委員会)

- ① 6月例会の開催(オープン例会)
- ② 乙訓水辺フェスティバル事業の開催
- ③ 広域な連携を推進するまちづくり事業の開催
- ④ 二市一町の行政・各諸団体との連携
- ⑤ 公益社団法人日本青年会議所・協働運動の連携と推進
- ⑥ 各種選挙における公開討論会の実施

(青少年育成委員会)

- ① 7月例会の開催(オープン例会)
- ② ケイジャーズカップ実行委員会への連携
- ③ 乙訓文化少年団の運営
- ④ 社会道徳研修事業の開催
- ⑤ 乙訓地方小学生駅伝大会委員会への連携
- ⑥ 公益社団法人日本青年会議所・協働運動の実践

3. 「JAYCEEとして社会的責任を果たそう」(ひとづくり情報室)

(人間力向上委員会)

- ① 3月3LOM合同例会の開催(オープン例会)
- ② 9月例会の開催(オープン例会)
- ③ 11月例会の開催(オープン例会)

(JC運動情報委員会)

- ① 4月メモリアル100%出席例会の開催
- ② 京都ブロック協議会公式訪問の開催
- ③ 地域振興検討会の開催
- ④ 行政地域諸団体の情報の収集及び管理
- ⑤ 青年会議所活動及び地域活動の外部発信並びに会報「おとくに新聞」の制作・発行及び管理(年12回)
- ⑥ 公式ホームページの制作及び管理
- ⑦ LOM外情報に関する内部発信
- ⑧ LOM内外各種事業の撮影と記録データ管理
- ⑨ 理事長対談の取材に関する事項
- ⑩ JCI・公益社団法人日本青年会議所・近畿地区協議会・京都ブロック協議会・各地青年会議所に関する案内・登録手続きに関する事項
- ⑪ 出向者支援に関する事項
- ⑫ 各事業案内のとりまとめに関する事項

4. 「絆を結び、未来へ継承しよう」(仲間づくり室)

(会員拡大委員会)

- ① 2月例会の開催
- ② FTセミナーの開催
- ③ 会員拡大活動の実施
- ④ 入会説明会の開催
- ⑤ 異業種交流会の開催
- ⑥ 各委員会への会員拡大活動の支援
- ⑦ 会員拡大活動に関する情報管理と更新
- ⑧ 新入会員の入会に至るまでのサポート
- ⑨ 新入会員の入会後のサポート
- ⑩ 新入会員入会式の設営・運営

(会員交流委員会)

- ① 1月例会・新春交歓会の開催
- ② 8月例会・納涼会の開催
- ③ 12月卒業式・忘年会の開催
- ④ 会員交流会の開催
- ⑤ 会員及び特別会員との親睦に関する事項

5. 「組織の礎として、運営基盤の整備に努めよう」(総務財政室)

(総務財政委員会)

- ① 5月例会の開催(会員大会)
- ② 12月例会の開催
- ③ 役員セミナーの開催
- ④ 総務及び庶務に関する事項
- ⑤ 事務局の管理運営に関する事項
- ⑥ 会員名簿及び基本資料の作成
- ⑦ LOM運営マニュアルの作成
- ⑧ 会員の活動報告に関する事項
- ⑨ 会員の褒賞・表彰及びブロック等への事業褒賞申請に関する事項
- ⑩ 総会及び理事会・正副理事長会議の設営・運営
- ⑪ 総務審査会議・財務・コンプライアンス会議の設営・運営
- ⑫ デジタル会議の設営・運営
- ⑬ 財務、会計一般に関する事項
- ⑭ 議案の管理に関する事項
- ⑮ 公益社団法人日本青年会議所 近畿地区 京都ブロック協議会との連携

6. 「次代も地域の中核たる乙訓青年会議所を目指そう」

(ビジョン会議)

- ① 10月例会の開催
- ② 勉強会の開催
- ③ 35周年記念式典及び記念事業の準備
- ④ 新5ヵ年行動指針の検証及び次代へ向けた行動指針の構想

公益社団法人乙訓青年会議所
第2次収支予算書(案)
2013年1月1日から2013年12月31日まで

(第1法) (単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入	10,000	20,000	-10,000	
特定資産利息収入	10,000	20,000	-10,000	
②入会金収入	1,210,000	1,420,000	-210,000	
新入会員入会金収入	720,000	720,000	0	@60,000円×12名
特別会員入会金収入	490,000	700,000	-210,000	@70,000円×7名
③会費収入	10,260,000	10,000,000	260,000	
正会員会費収入	9,360,000	9,100,000	260,000	@130,000円×72名
新入会員会費収入	900,000	900,000	0	1月～12月迄毎月入会者1名を想定する
賛助会員会費収入	0	0	0	
④事業収入	1,036,000	1,072,000	-36,000	
事業費繰入収入	0	0	0	
登録料収入	500,000	550,000	-50,000	文化少年団@10,000円×50名
販売収入	0	0	0	
預り金収入	536,000	522,000	14,000	ブロック大会@5,000×(72名+4名)+@2,000×地区大会(72名+6名)
雑収入	0	0	0	
⑤補助金等収入	169,860	0	169,860	
国庫補助金収入	0	0	0	
地方公共団体補助金収入	0	0	0	
民間補助金収入	169,860	0	169,860	3LOM合同オープン例会(他LOMからの補助金)
補助金等交付業務受託収入	0	0	0	
国庫助成金収入	0	0	0	
地方公共団体助成金収入	0	0	0	
民間助成金収入	0	0	0	
⑥寄付金収入	0	0	0	
飛竹会寄付金収入	0	0	0	
歴代理事長会寄付金収入	0	0	0	
その他寄付金収入	0	0	0	
⑦雑収入	2,000	2,000	0	
受取利息収入	2,000	2,000	0	
京都ブロック協議会受入収入	0	0	0	
その他雑収入	0	0	0	
事業活動収入計	12,687,860	12,514,000	173,860	
2. 事業活動支出				
①事業費支出	7,179,000	6,377,000	802,000	
総務財政委員会	245,000	0	245,000	
JC運動情報委員会	317,000	0	317,000	
人間力向上委員会	1,200,000	0	1,200,000	
会員拡大委員会	305,000	0	305,000	
会員交流委員会	1,275,000	0	1,275,000	
青少年育成委員会	1,350,000	600,000	750,000	内500,000円は文化少年団事業費
まちづくり委員会	1,400,000	1,100,000	300,000	
ビジョン会議	50,000	0	50,000	
公益総務委員会	0	300,000	-300,000	
公益財政委員会	0	250,000	-250,000	
資質向上委員会	0	620,000	-620,000	
経営研修委員会	0	750,000	-750,000	
JC伝承委員会	0	285,000	-285,000	
渉外交流委員会	0	1,000,000	-1,000,000	
特別事業費支出	501,000	400,000	101,000	乙訓ふるさとふれあい駅伝、災害時拠出金、公開討論会、KARA1グランプリ
登録料支出	0	550,000	-550,000	文化少年団@10,000円×50名
預り金支出	536,000	522,000	14,000	ブロック大会@5,000×(72名+4名)+@2,000×地区大会(72名+6名)
事業予備費支出	0	0	0	
②管理費支出	5,115,718	5,309,138	-193,420	
会議費支出	450,000	450,000	0	
給料手当支出	1,800,000	1,800,000	0	@150,000円×12ヶ月
退職給付費用	105,000	105,000	0	月額給与150,000円×70%
福利厚生費支出	300,000	270,000	30,000	事務局員社会保険料
旅費交通費支出	100,000	100,000	0	事務局員交通費
通信・発送費支出	530,000	530,000	0	電話代、切手、定例発送
消耗品支出	300,000	300,000	0	2013年度スローガン幕、封筒他
リース料支出	21,183	21,183	0	コピー機1年間
修繕費支出	0	0	0	
印刷製本費支出	95,000	95,000	0	総会資料印刷費、コピー機印刷費
光熱水料費支出	0	0	0	
賃借料支出	600,000	600,000	0	@50,000円×12ヶ月
業務委託支出	0	0	0	
インフォメーション関係費支出	551,535	614,955	-63,420	おとくに新聞、サーバー、ドメイン
保険料支出	0	0	0	
租税公課支出	3,000	3,000	0	印紙代
渉外費支出	60,000	120,000	-60,000	お祝い金、慶弔金、電報等
雑支出	200,000	300,000	-100,000	各事業振込手数料 JCバッチ 会員ネームタグ他
管理・運営予備費支出	0	0	0	

③負担金支出	1,810,100	1,706,994	103,106	
JCI負担金支出	84,000	73,144	10,856	@1,000円×(72名+12名)
日本JC負担金支出	465,000	440,000	25,000	
基本金支出	60,000	45,000	15,000	会員数50名迄が30,000円 25名増す毎に15,000円を追加
付加金支出	405,000	395,000	10,000	@5,000円×(72名+6名)+@2,500円×6名
近畿地区協議会負担金支出	147,800	144,200	3,600	
基本金支出	2,000	2,000	0	
付加金支出	145,800	142,200	3,600	@1,800円×(72名+6名)+@900円×6名
京都ブロック協議会負担金支出	597,000	583,000	14,000	
基本金支出	30,000	30,000	0	
付加金支出	567,000	553,000	14,000	@7,000円×(72名+6名)+@3,500円×6名
国際協力資金支出	153,300	149,650	3,650	@1,825円×(72名+12名)
日本JC出向者負担金支出	120,000	80,000	40,000	@20,000円×6名
WeBelieve購読料支出	243,000	237,000	6,000	@3,000円×(72名+6名)+@1,500円×6名
④他会計への繰入金支出	0	0	0	
一般会計への繰入金支出	0	0	0	
他会計への繰入金支出	0	0	0	
事業活動支出計	14,104,818	13,393,132	711,686	
事業活動収支差額	-1,416,958	-879,132	-537,826	
科目	予算額	予算額	増減	備考
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
①特定資産取崩収入	100,000	500,000	-400,000	
会員基本基金資産取崩収入	100,000	500,000	-400,000	
周年事業引当資産取崩収入	0	0	0	
退職給付引当資産取崩収入	0	0	0	
②固定資産売却収入	0	0	0	
土地売却収入	0	0	0	
建物売却収入	0	0	0	
構築物売却収入	0	0	0	
車両運搬具売却収入	0	0	0	
什器備品売却収入	0	0	0	
電話加入権売却収入	0	0	0	
③固定資産取崩収入	0	0	0	
減価償却積立資産取崩収入	0	0	0	
④敷金・保証金戻り収入	0	0	0	
敷金戻り収入	0	0	0	
出資金戻り収入	0	0	0	
投資活動収入計	100,000	500,000	-400,000	
2. 投資活動支出計				
①特定資産取得支出	3,318,950	500,000	2,818,950	
会員基本基金資産取得支出	2,818,950	0	2,818,950	
周年事業引当資産取得支出	500,000	500,000	0	
退職給付引当資産取得支出	0	0	0	
②固定資産取得支出	0	0	0	
土地取得支出	0	0	0	
建物取得支出	0	0	0	
構築物取得支出	0	0	0	
車両運搬具取得支出	0	0	0	
什器備品取得支出	0	0	0	
電話加入権取得支出	0	0	0	
減価償却積立資産取得支出	0	0	0	
③敷金・保証金支出	0	0	0	
敷金支出	0	0	0	
出資金支出	0	0	0	
投資活動支出計	3,318,950	500,000	2,818,950	
投資活動収支差額	-3,218,950	0	-3,218,950	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
①借入金収入	0	0	0	
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
①借入金返済支出	0	0	0	
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出	217,774	208,824	8,950	
当期収支差額	-4,853,682	-1,087,956	-3,765,726	
前期繰越収支差額	4,853,682	1,087,956	3,765,726	
次期繰越収支差額	0	0	0	

2013年度 公益社団法人乙訓青年会議所
会議構成員

			理 事 会	正 副 理 事 長 会 議
理 事 長	岡 村 猛	○議長	○議長	
副理事長	谷 口 準	○	○	
副理事長	田 中 俊 幸	○	○	
副理事長	三 宅 尚 嗣	○	○	
専務理事	山 崎 春 樹	○	○	
理 事 (ビジョン会議議長)	伊 東 紘 典	○	▲	
理 事 (まちづくり室室長)	大 筆 賢 太 郎	○	▲	
理 事 (仲間づくり室室長)	波 多 野 裕 人	○	▲	
理 事 (総務財政室室長)	松 宮 吾 朗	○	▽	
理 事 (ひとつくり情報室室長)	山 田 崇 宏、	○	▲	
理 事 (総務財政委員会委員長)	加 藤 裕 之	○	▽司会	
理 事 (青少年育成委員会委員長)	川 口 順 也	○	▲	
理 事 (まちづくり委員会委員長)	河 村 剛	○	▲	
理 事 (JC運動情報委員会委員長)	崔 祥 龍	○	▲	
理 事 (人間力向上委員会委員長)	山 東 尚 史	○	▲	
理 事 (会員交流委員会委員長)	嶋 田 年 比 于	○	▲	
理 事 (ビジョン会議副議長)	末 田 博 士	○	▲	
理 事 (会員拡大委員会委員長)	南 出 高 志	○	▲	
理 事 (ビジョン会議副議長)	山 本 博 明	○	▲	
理 事 (総務財政委員会副委員長)	岩 井 一 真	○司会	▽	
監 事	齊 藤 寛 之	□	□	
監 事	山 下 純 平	□	□	
直前理事長	坂 田 徹	□	□	

○：構成員

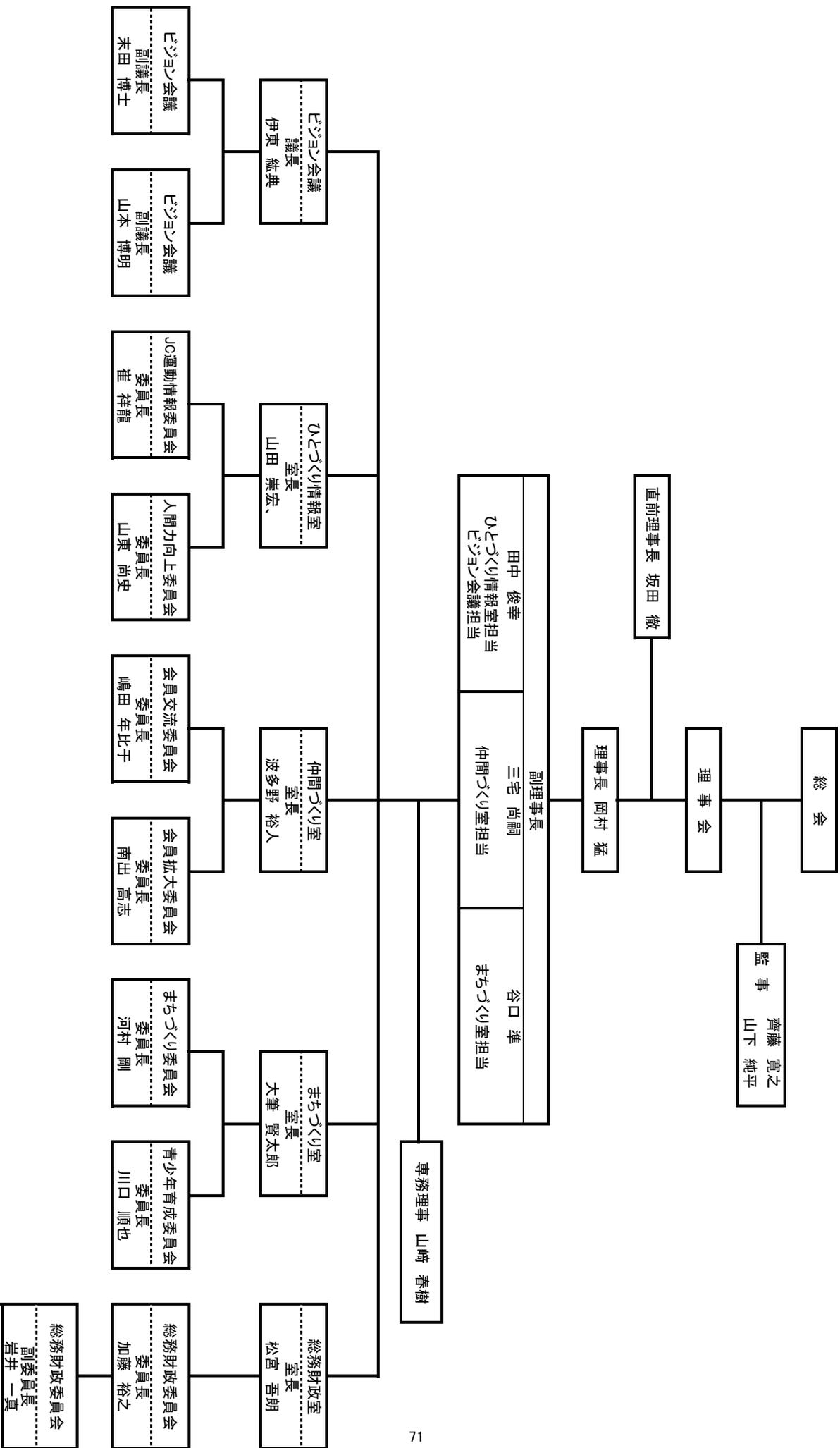
□：常時出席の上、発言できる

▽：常時オブザーブ

▲：議長の要請を受けて出席する

理事会議事録：総務財政委員会

2013年度 公益社団法人乙訓青年会議所 組織図



乙訓青年会議所は、明るい豊かな社会の実現を理想とし、次代の担い手たる責任感を持った指導者で在ろうとする青年の団体です。先輩諸兄が、弛まぬ努力のもと活動を続けて来られた33年間のJAYCEEとしての誇りを、熱い想いをもち次代に繋いでいかなければなりません。公益社団法人として3年目を迎え、名実共に公益団体として活動している我々は、今後更なる地域からの負託と信頼に応える為にも、公益性と透明性のある運営基盤を確立する事が必要です。

総務財政委員会は、先輩諸兄が築き上げて来られた素晴らしい会議運営形態を継承し、精度の高い会議が行えるよう、事業の立案から開催へ向けて積極的に関わります。各委員会との連絡や相談を密に情報を共有して、より活発な議論が行える議案を上程して頂けるよう活動致します。会議の重要性を認識し、事業は「計画・実行・検証」のいずれが欠けても成り立たない事を肝に命じ、各委員会の指南役で在り、良きパートナーで在るように努めます。公益性に関する項目も適正な目でチェックを行い、法令が遵守されているのかも厳正に管理致します。財務面では、事業内容に対して費用対効果をしっかりと見定め、透明性のある財務運営を行います。運営基盤を確立する為にも、システムやルールを周知徹底する事務事項説明会を開催し、LOM運営マニュアルや基本資料等を作成致します。役員セミナーでは、理事長より1年間の活動方針と方向性のご講演を頂き、役員のそれぞれの役割と責任や乙訓青年会議所のビジョンについて学ぶ事で、経験値に関わらず役員としての心得をご理解頂きます。5月例会では、京都ブロック大会日に開催地である亀岡の地に於いて開催致します。京都ブロック大会にも積極的な参加を促し、京都ブロック協議会との連携を図り、一番身近な日本青年会議所の運動を学んで頂きます。12月例会では、1年間の集大成として本年度の様々な活動を振り返って頂き、顕著な活動を行ったメンバーを褒賞にて称え、次年度以降へ青年会議所運動を伝承していきます。我々の運動を推し進める為には、一人でも多くの同志が必要です。この3年間で約40名のメンバーが卒業していく事を鑑みれば、会員拡大活動は急務です。多くの方に乙訓青年会議所の魅力を発信し、一人でも多くの同志が出来るように会員拡大委員会と連携致します。また、まちづくり事業や青少年育成事業にも積極的に協力し参加する事に努めます。そして、本年度は新5ヶ年行動指針の最終年度を迎え次代へ向けた指針の構想を行う為、ビジョン会議とも連携を密に致します。

1年間を通じ総務財政委員会では、委員会メンバーが組織運営の中核を担う事に責任と誇りをもち、真っ直ぐな心で、情熱的に取り組みます。現状に満足する事はせず、自分を律し進化させ、個々が進化すれば自ずと組織も進化する胸に刻み込み、何事にも勇猛果敢に新たなる可能性に挑戦し続けます。

現在の日本を取り巻く社会情勢の変化は目まぐるしく、大規模な天災や長引く不況、近隣諸国との関係悪化によって将来に対して誰もが不安を感じています。その不安を払拭する為にも、将来を担う宝である子ども達を健やかに育む事は、学校や親だけでは無く地域の大人に課せられた使命であると言えます。ところが実態として養育を放棄する親が少なからず存在し、親の責任感や親子間と地域間での交流が希薄となった結果、青少年犯罪の凶悪化に歯止めが掛からず、いじめ等の痛ましい事件が連日発生しています。この事象は子ども達だけの問題では無く、利己的な価値観が育まれ易い社会全体が抱えている問題であり、私達が幼少より培ってきた「相手を思いやる気持ち」をしっかりと次代に伝え、進むべき方向性を堂々と示す事が出来れば必ずや改善出来ます。

公益社団法人である乙訓青年会議所は設立当初より先輩諸兄が諸問題に対し勇猛果敢に活動して来られ、地域の大人や子どもに対して真摯に向き合い、堂々と進むべき方向性を示して来られました。そうして築き上げられた地域の負託と信頼を引き継ぎ発展させていく為にも、理念と想いを継承する現役メンバーの日々の活動が重要です。子ども達の規範となるべく意識して行動する事で、私達自身も地域に貢献出来る人材へと磨き上げられるのではないのでしょうか。

本年度、青少年育成委員会では乙訓の宝である子ども達の愛郷心を育みながら健やかに成長して頂くように各委員会と協力して乙訓文化少年団を運営し、その中で親と子が協力する事の大切さを体感出来る社会道徳研修事業を開催致します。7月オープン例会では地域の大人が自信と責任感を持って子ども達に進むべき道を示せるように、社会道徳について真摯に学ぶ機会を創出致します。ケイジャーズカップでは実行委員会と連携して競技の魅力が伝わる大会運営を行いません。第10回の節目を迎える乙訓ふるさとふれあい駅伝では大会委員会と連携して、愛郷心を育みながら地域の交流が実感出来る事業となるよう協働します。私達が掲げる理念を実現する為には多くの実行力が必要であり、共に活動してくれる同志を増やす必要があります。その為にも会員拡大委員会と連携して会員拡大活動を積極的に行ない、まちづくり委員会に協力してより多くの市民の郷土愛を高め、明るい豊かな乙訓の実現を目指します。そしてビジョン会議と連携して乙訓青年会議所の軌跡を検証し、将来への指針を策定して参ります。

最後に青少年育成委員会メンバーは子ども達と積極的に交流を図り、自信と責任感を持って「相手を思いやる気持ち」に代表される社会道徳を地域の大人や子どもにお伝え致します。そして笑顔が咲き誇れる乙訓を目指してまずは私自身、そして委員会メンバーがどんなときでも明るく前向きに活動し、各事業を楽しみながらも熱意を持って真剣に取り組む姿を見せる事で、乙訓全体が一枚岩となるよう邁進して参ります。

乙訓青年会議所は、創立34年目を迎えます。これまで先輩諸兄が、地域の方々と共に乙訓地域を住みよいまちにする為に真摯に向き合い、熱い志を持ち地域に根差したまちづくり活動を行って来られました。その結果、今日に至っては二市一町の行政や地域諸団体、市民の方々との連携が生まれ、乙訓地域になくてはならない団体として認められています。私達は、先輩諸兄の志を引き継ぎ「明るい豊かな社会」の実現に向けて、直心熱動の思いでまちづくり活動に邁進していく責務があります。

現在、日本はますます核家族化や利己主義の風潮が顕著になり、隣人等との人間関係が希薄化し、地域コミュニティが低下していると感じられるようになって来ました。乙訓地域でも、周りの方々や自分達が住む地域に対して無関心で、自分さえ良ければいいという考え方が、少なからずあるのではないのでしょうか。このような風潮に流されず、市民の方々が乙訓地域を愛する思いを持つ事がよりよいまちづくりに繋がると考えます。私達は「明るい豊かな社会」の実現に向けて、積極的に周りの方々との関わり合いを持ち、慣れ親しんだ自然や文化を通して、乙訓地域を愛する心を育てていく必要があります。そして、私達は生まれてくる子ども達の為に、未来永劫変わらない笑顔溢れる乙訓地域を築かなければなりません。

本年度、まちづくり委員会では「乙訓愛」というテーマを掲げ活動します。6月オープン例会では、私達と市民の方々が乙訓地域に対して愛着と誇りを持ち、郷土愛を再認識して頂きます。そして、乙訓地域を大切に考え行動すれば、よりよいまちづくりに繋がりと、住みよいまちへと変わっていく事をお伝えします。乙訓水辺フェスティバルでは、市民の方々が乙訓地域の財産である豊かな自然や歴史、文化に触れ合う事によって、自分達が住む地域の素晴らしさを感じ、郷土愛を育てて頂きます。また、ひととひととが関わり合いを持ち、地域コミュニティの活性化に繋がる事業を目指します。二市一町の行政、地域諸団体との広域な視野を持った活動を行う為に連携を図り、ネットワークの強化に向けて取り組みます。乙訓青年会議所が継続的に事業する為に会員拡大は急務と考え、一人でも多くの同志の入会を募り共に活動します。また、乙訓地域の次代を支えてくれる子ども達を育成する青少年育成委員会の事業に、力を注ぎ協力し、ビジョン会議では次代を担う乙訓青年会議所にとって、方向性を決める重要な役割と考え連携します。

最後に、私自身が今まで以上に「乙訓愛」を大切にし、周りの方々や乙訓地域に優しくなり、率先してまちづくり活動に取り組みます。そして、委員会メンバーと共にあらゆる事業にも、明るく元気に楽しんで活動していきます。しかし、苦しくて目を背けたくなる時もあると思いますが、そんな時こそ燃えるような熱い思いで立ち向い1年が終わった時、笑顔と涙で活動が終えられるよう委員会メンバーが、一枚岩となって邁進していきます。

本年34年目を迎える乙訓青年会議所は、創立以来「明るい豊かな社会の実現」を理念に活動を行っています。先輩諸兄が築いて来られた乙訓青年会議所の活動は地域の皆様にも評価を頂き、我々に引き継がれました。現在に於いて、社会情勢は混迷し、大変厳しい状況下におかれています。こういった逆境にこそ我々は、JAYCEEとしての社会的責任を果たし、この乙訓地域に対し行動し続ける必要があります。

我々は青年会議所活動の中で、地域を引っ張る団体になりさえすればいいのでしょうか。または青年経済人として、自社が潤えば社会責任を果たしていると言えるのでしょうか。確かにその側面もあるかも知れませんが、社会を構成するのは青年会議所、会社の経営者だけではありません。そこには他の多くの団体や、企業を支える社員、地域の方々など様々な方がおられます。その方々を思い、助け合い、感謝して社会的責任を果たさなければなりません。

我々JAYCEEが社会的責任を果たす為には、行動力を内面からサポートする人間力の向上が必要となります。厳しい社会情勢の現在に於いて、鋭い洞察力で本質を見抜き、自己の表現力を磨き、自分の意思、判断で行動する必要があります。これらの人間力を向上させる為に必要な要素は、人を思いやり、助け合い、感謝する事を念頭におけば必ず身に付きます。一人ひとりが自分を見失う事なく人間力を向上させ、その力を結集させれば大きな力となり乙訓を動かす事が出来ます。乙訓青年会議所がその旗振り役となり、この地域社会に影響を与え続ける存在になる事が求められているのです。

本年度人間力向上委員会では3回の例会を開催し、それぞれの例会で3つの人間力の構成要素について深く考えて頂きます。3月3LOM合同例会では「本質を見抜く洞察力」に関して、9月例会では「自己の表現力」に関して、11月例会では「主体性のある行動力」に関しての例会を利他の精神に基づいた考えで開催します。人の為に何が出来るのかを根本に考え、企業に関してはその社員と家族、地域活動ではそれに関わる全て人の為に人間力の向上を目指します。また、まちづくり委員会、青少年育成委員会、ビジョン会議との連携も図ります。会員拡大活動に於いても、委員会メンバー全員が積極的に協力し1年間活動していきます。

最後に人間力向上委員会では、人の為に行動できる人間力の高い人になる為、利他の精神の実践が自分の利益になるという考えではなく、利他の精神を実践する事がそのまま自分の幸せであるという考えで行動します。人間力が向上する事で、家族はもとより、職場の仲間、地域の方々に信頼され、延いては力強い経営者になれるように取り組んでいきます。そして、「直心熱動」のスローガンのもと、主体的に行動し、メンバーはもちろんの事、オープン例会に足を運んで頂く地域の皆様にも学びの多い1年になるよう委員会メンバーが一丸となり邁進していきます。

今、日本は経済危機や社会情勢の不安に加え、大震災以降まさに国難を迎えております。この困難に対して青年会議所が、先頭に立ち青年らしく歩む事で、解決の道筋を探っていく道標となっていくはずです。この乙訓の地においても、諸先輩方がこのまちをより良いまちに導く為、乙訓青年会議所を設立し、33年間先頭に立って活動されて来ました。これからも乙訓青年会議所は明るい豊かなまちの創造を目指し、まず我々自身が明るく元気に活動する事が重要です。

JC運動情報委員会では、1年間「直心熱動」の思いを込め、ひともまちも明るく元気になる事を目指し、対内、対外へ情報の発信を行います。4月メモリアル100%出席例会では、青年会議所運動を推し進めていく為にも、まずは我々乙訓青年会議所の歴史を学ぶ事が重要であると考えます。法人格取得月である4月に会員全員で、乙訓青年会議所の創始の精神と諸先輩方が歩んで来られた歴史を学び、会員としての自覚と、誇りを持つ事が出来る例会を設えます。地域振興検討会では、同じ地域でまちづくりや、ひとづくりを行う地域諸団体の皆様と今まで以上に協力と連携を行う為にも、お互いを知る事が重要であると考えます。お互いの活動内容を情報交換する事で自分たちの活動に生かす事が出来、更には団体間のネットワークを築く事が出来る事業を設えます。広報活動においては公益社団法人として、乙訓JCホームページを利用してその活動状況、運営内容、財務資料等を公開して参ります。また、各オープン事業の告知や、乙訓青年会議所の運動、活動を適宜に発信する事で、乙訓青年会議所をPRし、一人でも多くの方々に理解、賛同して頂きます。おとくにしんぶんでは紙媒体である特性を生かし、広く地域の皆様に知ってもらうツールとして、地域の方々の目に止まり易い紙面作りを心がけます。二市一町の代表の方々と理事長対談や、乙訓青年会議所の事業案内、地域で行われる他団体を始めとしたまちの元気な活動を掲載する事で、各諸団体、行政との積極的な関わりをPRして参ります。渉外活動においては、JCIを始め各地青年会議所に関する各種案内、登録手続き等を迅速かつ正確に発信と手配を行い、皆様にとって多くの学びの機会が得られるよう活動を行って参ります。全ての情報を発信していく為、まちづくり事業や青少年育成事業、今後の乙訓青年会議所の未来を考えるビジョン会議に、積極的に参加と協力をして参ります。そして、会員拡大活動においても、積極的な協力を行って参ります。

JC運動情報委員会は1年間、青年らしく元気に積極的に様々な活動に参加して参ります。活動していく中には、苦しい時もあるかもしれません。そんな時こそ仲間としっかりとスクラムを組み互いを励まし合い、前に進む事によって苦しみを乗り越え目標にたどり着く事が出来ます。委員会メンバーそれぞれが新たな事に挑戦し、自分の弱さを克己する事により新たな自分自身に出会い、一生の仲間が作れる1年間を目指して参ります。

青年会議所では「明るい豊かな社会の実現」に向けて40歳までという限られた時間の中で若さと希望を持ってまちづくり活動、ひとづくり活動を行って参りました。しかし、現在私達の住むこの日本は未曾有の経済不況、青少年犯罪の凶悪化、いじめ等の痛ましい事件、領土問題など様々な問題を抱えております。こんな時代だからこそ、地域の人達は私達のような地域の為に行動出来るリーダーを必要としているのではないのでしょうか。今こそ私達の運動を地域に広め、数多くのメンバーで問題を解決していかなければならないと考えます。その為には今一度、青年会議所の存在意義を再認識し、そこから導き出された乙訓青年会議所の魅力を地域の方々に発信し、同じ志を持ち変化の激しい時代を共に乗り越え成長していく事の出来る仲間を増やす事が必要です。

本年度会員拡大委員会では、会員拡大の重要性をLOMメンバーに伝え、この活動を全員で行って頂けるように、委員会メンバーが先頭に立って新たな会社の訪問やLOMメンバーとの連携を深め候補者を募り、候補者のリストアップを徹底的に行い100名のLOMを目指します。そして候補者に責任と熱意を持って訪問し乙訓青年会議所の魅力を伝える事が出来れば、この目標が達成出来ると確信します。そして、会員の拡大だけではなく新入会員のフォローアップも徹底して行います。また入会説明会では、青年会議所運動の理念と活動内容を伝え、乙訓青年会議所の魅力と、この組織の素晴らしさを知って頂き、入会に繋げていきたいと考えます。また、一般の方々が気軽に参加し名刺交換が出来るような異業種交流会を開催致します。2月例会では、他LOMでの会員拡大の成功事例や手法を紹介し、乙訓青年会議所メンバー全員に会員拡大への気概と自信を持って頂きます。その上で、1年間会員拡大に努めて頂けるように、委員会の情熱と意気込みをしっかりとお伝えし重要性を再認識して頂きます。FTセミナーでは地域社会に貢献出来るJAYCEEを育成する為、FMメンバーに青年会議所の基礎知識、活動の意義や目的を理解して頂きます。そして、課題を通じてFMメンバー同士の絆を深め、今後の青年会議所活動に活かす事の出来る機会を創出致します。委員会メンバー全員でビジョン会議の勉強会にも進んで参加し将来の乙訓青年会議所のあり方を共に考え連携して参ります。そして、乙訓地域の活性化を目指すまちづくり事業、地域の子ども達を育成する青少年育成事業にも積極的に参加致します。

最後に委員長として「直心熱動」の思いで1年間先頭に立って会員拡大活動を行い、委員長から委員会メンバーへ、そして乙訓青年会議所メンバーへと情熱をお伝え致します。メンバー全員で拡大活動を行えば入会者の人数だけではなく、会員拡大の大切さと団結力の向上を実感して頂けると確信しています。本年度1年間、仲間の深い絆と、乙訓青年会議所の会員である誇りを胸に、邁進して参ります。

乙訓青年会議所は、先輩諸兄から脈々と受け継がれた伝統を引き継ぎ、更に地域の負託と信頼に応えるべく公益社団法人格を取得し活動しております。この活動を継続させた先には、私達が目指す「明るい豊かな社会の実現」があります。次年度創立35周年を迎える乙訓青年会議所は、新たな中期目標を掲げ、私達の理念実現を目指す為にメンバー同志が信頼団結し、同じ方向に向かって歩む基盤を確立する必要があります。

本年度、会員交流委員会では各委員会の垣根を越え、メンバー同志が本当の絆を結ぶべく活動して参ります。自分の主張を理解してもらう為、素直な心で相手の考えを理解し、信頼出来る絆を構築する。時には激しい議論になるかもしれませんが、しかし互いに信頼出来るからこそ議論が出来る、そんな絆を確立すべく活動致します。この活動が青年会議所活動の基盤である組織力の向上、確立に繋がると確信します。1月例会・新春交歓会では「直心熱動」に込められた熱い想いを理解し、本年度の乙訓青年会議所としての方向性を知って頂きます。ご参加頂く行政関係者、特別会員、他LOMの皆様と新春の挨拶を交わすと共に、大いに懇親を深めて頂きます。8月例会では、本年度各委員会が掲げられた方針を再度確認し、活動された内容の検証を行うと共に、今後の意気込みをメンバー全員に周知して頂きます。納涼会では8月までの活動に対し、メンバー全員で労をねぎらい、懇親を深めると共に、今後各委員会が更に相互協力の出来る絆を構築して参ります。会員交流会では、各委員会内での交流を行うと共に、メンバー全員が親睦を深める事の出来る事業を実施致します。年間を通じて特別会員との交流もサポートして参ります。卒業式では、卒業生がこれまで過ごされてきた青年会議所活動を振り返り、今後の活動をより素晴らしいものにして頂ける設えを致します。忘年会ではこの1年間の活動を互いに称え合い、次年度へ一丸となって取り組む事の出来る設えを実施致します。同室である会員拡大委員会と協力し、率先して会員拡大活動に取り組んで参ります。また、公益団体として大きな担いでもある、地域の未来を担う子ども達を育てる為の青少年育成活動、地域の活性化に繋がるまちづくり活動にも積極的に取り組んで参ります。乙訓青年会議所のビジョンを創出するビジョン会議とも連携し、活動して参ります。

結びに、私達会員交流委員会は今年度の担いをしっかりと理解し、活動致します。まずは私達委員会メンバー全員が、率先して交流する事から取り組む必要があります。互いの主張を理解し合う為に議論をぶつけ、切磋琢磨し、本音で語り合える関係を確立します。その活動を、委員会メンバーが行動で伝える事で、乙訓青年会議所のメンバー全員が信頼し合える絆を実感出来ると確信致します。私達会員交流委員会の行動が、乙訓青年会議所の基盤となる組織力の向上に繋がると確信し、団結して行動して参ります。

1998年に乙訓青年会議所は「地球市民意識あふれる乙訓」を理念に掲げた2020年ビジョンを策定しました。そこには「自分が変われば周りが変わる。周りが変われば地球が変わる」と謳われています。このビジョンの実現には、まず、我々メンバーが地球市民意識を持ち、個として成長しなくてはなりません。個の成長は、組織の成長にも繋がるのです。メンバー同士が上辺だけの人間関係だけでなく、自立・共生・創造という考え方をもち、真の人間関係を築き、周りに伝える事が出来ればきっと乙訓全体にも波及し、地球市民意識あふれる乙訓へと変わり、ビジョンが実現出来ると考えます。

ビジョンとは、自分が何者で、何を目指し、何を基準にして進んで行くのかを明確にし、理解する事であると考えます。自分が何者かを考える事で、目的が明確になり、何を目指しているのかを考える事で、未来のイメージが描けます。何を基準にするのかを考えれば、価値観がはっきりします。そして、理解する事で、日々どのように行動すれば良いかが解ります。どんなに優れたビジョンであっても、理解していなければ意味がありません。どんなに優れた個が集まっても同じ方向を向かなくては組織として力を発揮する事は出来ません。ビジョンは、組織を烏合の衆としない為に必要なものなのです。

本年度は30周年の折に発表した新5カ年行動指針の最終年度を迎えます。また、一昨年乙訓青年会議所は公益社団法人格を取得し、これまでよりも一層の公益性を求められる団体となりました。これらの事を踏まえ、本年度ビジョン会議では、公益法人として未来を見据え、ビジョン達成に向け進み出せるような中短期の行動指針策定に向けた議論を行って参ります。その為に、この5年間に行った活動を振り返り、新5カ年行動指針の達成を検証する事で、2020年ビジョンへの現在の到達点を、明確にする事が出来ると考えます。それを基に、LOMメンバーが共有するビジョンを創る為に会議体で議論して参ります。また、LOMの皆様にも、ビジョンを理解し共有して頂けるような学びの場である勉強会を開催し、10月例会に於いては、新たな行動指針の草案を発表させて頂きたいと思っております。2014年度には、創立35周年という節目を迎えます。明るい豊かな社会の実現に向けて活動されて来た先輩諸兄の情熱を、次代に引き継ぐ事が出来るような式典や記念事業を開催する為に、事前の準備を進めて参りたいと思っております。会員拡大活動に於いては、一人でも多くの同志を増やす為に、会員拡大委員会と連携協力して行きます。また、青年会議所運動の原点は「まちづくり、ひとづくり」にある事を意識して、まちづくり事業、ひとづくり事業へも連携協力をしっかりと行って参ります。

最後にビジョン会議では「直心熱動」のスローガンの基、一所懸命青年会議所活動に取り組みながら、志を同じくする仲間と自分の真っ直ぐな心を信じて、感謝の気持ちと思いやりを忘れずに、熱い気持ちで活動して参ります。

2013年度 公益社団法人乙訓青年会議所 出向者一覧

【公益社団法人日本青年会議所】

国家グループ 勇壮なる日本創造会議	議 員	伊 藤 武
国家グループ 勇壮なる日本創造会議	議 員	清 水 野 分
国家グループ 領土・領海委員会	委 員	大 筆 賢太郎
国家グループ 領土・領海委員会	委 員	谷 口 準
未来グループ 拡大委員会	委 員	松 宮 吾 朗

【公益社団法人日本青年会議所 近畿地区協議会】

イノベーション創造委員会	委 員	岩 本 伸 一
イノベーション創造委員会	委 員	三 浦 靖
イノベーション創造委員会	委 員	森 本 大 介
地域災害ネットワーク確立委員会	委 員	齊 藤 寛 之
勇壮なる近畿実現委員会	委 員	神 島 真 吾
勇壮なる近畿実現委員会	委 員	塩 見 知 哉
勇壮なる近畿実現委員会	委 員	谷 口 直 満
勇壮なる近畿実現委員会	委 員	山 田 崇 宏、

【公益社団法人日本青年会議所 近畿地区 京都ブロック協議会】

	監査担当役員	坂 田 徹
勇壮なるJYACEE育成委員会	委員長	松 宮 吾 朗
勇壮なるJYACEE育成委員会	総括幹事	高 下 一 成
勇壮なるJYACEE育成委員会	会計幹事	壇 輝 樹
勇壮なるJYACEE育成委員会	委 員	藤 野 智
勇壮なるJYACEE育成委員会	委 員	森 貫 二
総務情報委員会	副委員長	波多野 裕 人
総務情報委員会	委 員	疋 田 泰 種
国際関係推進委員会	副委員長	伊 東 紘 典
国際関係推進委員会	委 員	阿 部 清 隆
国際関係推進委員会	委 員	奥 村 太 朗
国際関係推進委員会	委 員	菜 島 拓 朗
ブロック大会運営委員会	委 員	黒 川 昌 哉
ブロック大会運営委員会	委 員	谷 口 直 満
ブロック大会運営委員会	委 員	能 見 太 朗
公益財政委員会	委 員	末 田 博 士
公益財政委員会	委 員	山 下 純 平

2013年度 公益社団法人乙訓青年会議所 年間公式スケジュール

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総 会	第1回通常総会 30日(水)								第1回臨時総会 4日(水)			第2回臨時総会 4日(水)
例 会	8日(火)	14日(木)	14日(木)	11日(木)	19日(日)	13日(木)	11日(木)	8日(木)	12日(木)	10日(木)	14日(木)	12日(木)
理 事 会	17日(木)	21日(木)	21日(木)	18日(木)	16日(木)	20日(木)	18日(木)	12日(月)	19日(木)	17日(木)	21日(木)	19日(木)
正副理事長会議	5日(土)	7日(木)	7日(木)	4日(木)	2日(木)	6日(木)	4日(木)	1日(木)	5日(木)	3日(木)	7日(木)	5日(木)
総務財政委員会	24日(木)	28日(木)	28日(木)	25日(木)	23日(木)	27日(木)	25日(木)	22日(木)	26日(木)	24日(木)	28日(木)	26日(木)
青少年育成委員会	2日(水)	6日(水)	6日(水)	3日(水)	1日(水)	5日(水)	3日(水)	7日(水)	4日(水)	2日(水)	6日(水)	4日(水)
まちづくり委員会	28日(月)	25日(月)	25日(月)	22日(月)	27日(月)	24日(月)	22日(月)	26日(月)	23日(月)	28日(月)	25日(月)	23日(月)
人間力向上委員会	21日(月)	18日(月)	18日(月)	15日(月)	20日(月)	17日(月)	15日(月)	19日(月)	16日(月)	21日(月)	18日(月)	16日(月)
JC運動情報委員会	7日(月)	4日(月)	4日(月)	1日(月)	6日(月)	3日(月)	1日(月)	5日(月)	2日(月)	7日(月)	4日(月)	2日(月)
会員拡大委員会	22日(火)	26日(火)	26日(火)	23日(火)	28日(火)	25日(火)	23日(火)	27日(火)	24日(火)	22日(火)	26日(火)	24日(火)
会員交流委員会	15日(火)	19日(火)	19日(火)	16日(火)	21日(火)	18日(火)	16日(火)	20日(火)	17日(火)	15日(火)	19日(火)	17日(火)
ビジョン会議	14日(月)	11日(月)	11日(月)	8日(月)	13日(月)	10日(月)	8日(月)	12日(月)	9日(月)	14日(月)	11日(月)	9日(月)
そ の 他	事務局開室7日(月) LOMナイト19日(土)								水辺フェスティバル 8日(日)	FTセミナー 12(土)日~13日(日)		卒業式・忘年会 13日(金) 事務局納め 27日(金)
京都フロック協議会	新春訪問 会長LOM訪問	会長LOM訪問	会長LOM訪問	京都府行政士の対談	国民参加型憲法事業 フロック大会 亀岡 19日(日)	国際事業 28日(金)~30日(日)	公開討論会	アカデミー事業 25日(日)		本次年度合同会議 26日(土)		
府内青年会議所周年												
” 会員会議所	26日(土) 舞鶴	23日(土) 山城	30日(土) 船井	27日(土) 宇治	31日(金) 亀岡	25日(火) 福知山	30日(火)		28日(土) 綾部	26日(土) 京都	30日(土) 宮津	
” 正副役員会議	15日(火) 山城	9日(土) 城陽	16日(土) 乙訓	12日(金) 福知山	11日(土) 船井	11日(火) 亀岡	6日(土) 京丹後		14日(土) 京都	12日(土) 綾部	12日(火) 舞鶴	
” 財政特別審査会議コン プライアランス審査	20日(日)	16日(土)	23日(土)	20日(土)	18日(土)	22日(土)	19日(金)		21日(土)	19日(土)	16日(土)	
近畿地区協議会	会員会議所 京都 19日(土)				GTS 22日~26日(案)							会員会議所 (京都)
NOM主要事業	京都会議 (京都) 17日(木)~20日(日)		(仮)復興フォーラム (宮城) 10日(日)				サマーコンプレックス (横浜) 20日(土)~21日(日) 国際アカデミー (福山) 7日~12日			全国大会 (奈良) 3日(木)~6日(日)		
JCI諸会議						AREA B会議 (ASPAC) (光州) 13日(木)~16日(日)					JCI世界会議 (リオデジャネイロ) 5日(火)~10日(日)	